

令和2年度（令和元年度事業対象）

宍粟市教育委員会  
点検・評価報告書

令和2年12月

宍粟市教育委員会

# 目 次

## ■教育委員会評価の概要

1. 趣旨	P 1
2. 評価実施内容	P 1
3. 令和2年度評価内容	P 1
4. 有識者の選任	P 1
5. 令和2年度 点検評価 有識者等名簿	P 2

## ■教育委員会の活動状況

1. 教育委員の構成	P 3
2. 教育委員会の組織	P 3
3. 教育委員会の開催状況	P 4
4. 教育委員会の審議状況	P 4～P 9
5. 教育委員会委員の活動状況	P 9～P10

## ■教育委員会施策の点検・評価

### 点検・評価結果

令和2年度（令和元年度事業対象）宍粟市教育委員会事務事業評価シート

就学前教育・保育	P11～P13
学校教育	P14～P25
社会教育	P26～P31

## ■教育委員会評価の概要

### 1. 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会自らが毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、これを公表することが義務付けられ、宍粟市教育委員会においても平成20年度（平成19年度実施事業）から政策効果をしっかりと把握した上で、必要性や効率性等の観点から教育委員会事務事業の点検・評価を行っています。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 2. 評価実施内容

宍粟市教育方針である『宍粟の教育』に基づき、担当部署での成果や課題整理・検証による自己評価（第1次評価）を行った後、点検及び評価にかかる有識者の意見、提案等による第2次評価をいただき、次年度に向けた事務事業の改善に役立てます。

### 3. 令和2年度評価内容

令和2年度の評価内容は、令和元年度『宍粟の教育』基本目標に沿って66項目について点検し、評価を行います。

### 4. 有識者の選任

就学前教育・保育、学校教育、社会教育に関し学識経験を有する者や保護者代表等を選任し、有識者や外部からの視点で評価していただきます。

5. 令和元年度点検評価有識者等名簿

※敬称略

No	分野	主な役職等	氏名
1	就学前教育・保育	元幼稚園長	井口 照子
2	就学前教育・保育	保育協会宍粟支部代表 (段ちびっこえん園長)	山田 彰代
3	就学前教育・保育	西播磨幼稚園連絡協議会宍粟市代表 役員 (城下幼稚園PTA会長)	辻川 俊二
4	学校教育	元小学校長	堀田 善巳
5	学校教育	元小学校長	春名 雅行
6	学校教育 社会教育	市連合PTA会長 (一宮南中学校PTA会長)	田路 賀之
7	社会教育	社会教育委員会副委員長	宮脇 昭介

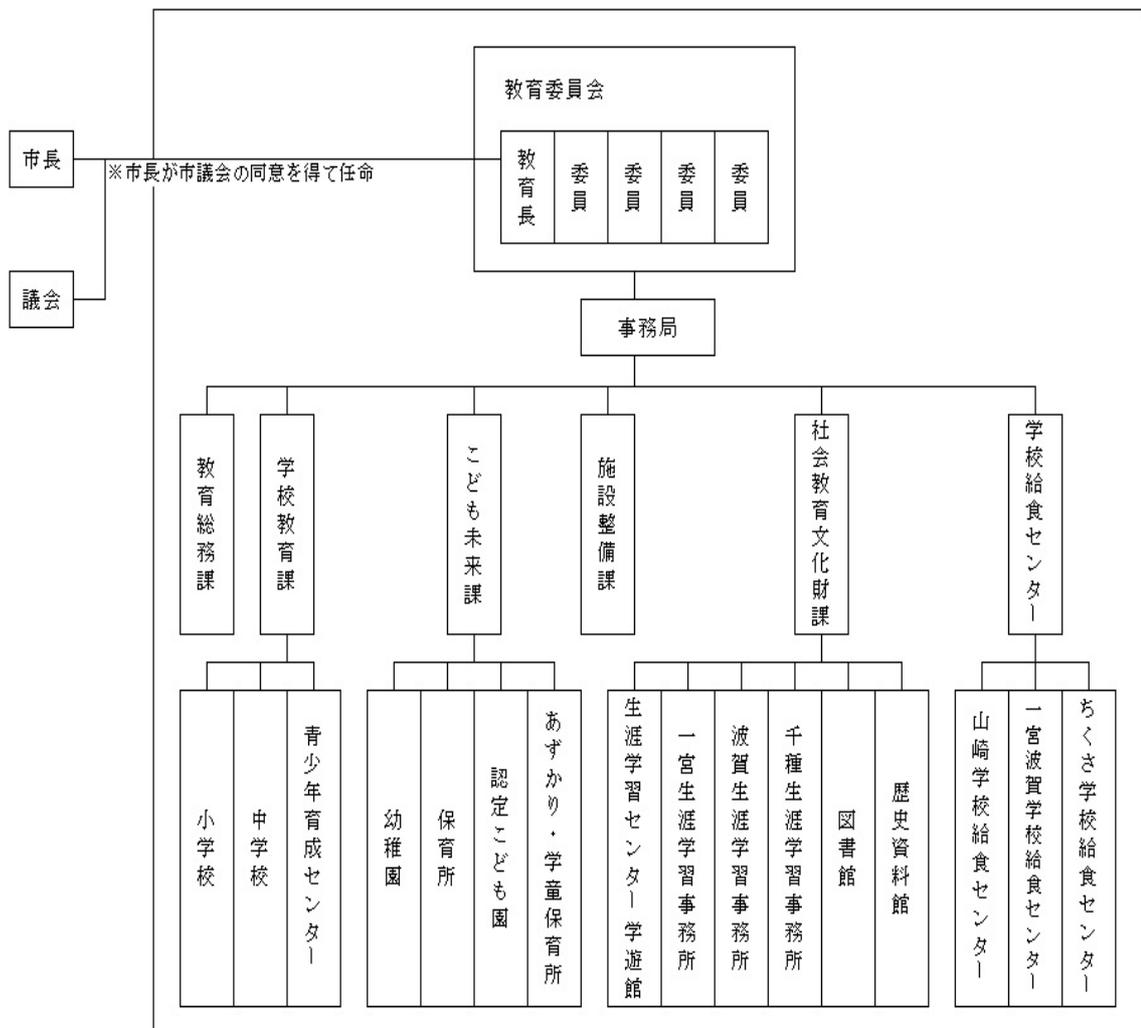
## ■教育委員会の活動状況

### 1. 教育委員の構成（令和2年3月31日現在）

役職	委員名	任 期
教育長※	西岡 章寿	平成30年6月3日～令和3年6月2日
教育長職務代理者	金本 一二	平成29年6月3日～令和3年6月2日
委員	片山 繁樹	平成30年6月3日～令和4年6月2日
委員	中山 由香里	平成29年6月3日～令和3年6月2日
委員	前田 純恵	平成28年6月3日～令和2年6月2日

※地方教育行政の組織及び運営に関する法律（平成27年4月1日施行）に基づく教育長

### 2. 教育委員会の組織（令和2年3月31日現在）



※市民の多様な活動の支援、市民との協働の推進、地域コミュニティの活性化等、人づくり、地域づくりの総合的な推進を一体的に推進するため、平成27年度より教育委員会が所管していた事務の一部（スポーツ等）を市長部局職員に補助執行させる。

### 3. 教育委員会の開催状況

教育委員会議については、必要に応じて開催することとし、令和元年度は12回の委員会を開催しました。

会議回	開催日時	開催場所	傍聴人数
第1回	平成31年4月12日 午後5時～	宍粟防災センター	—
第2回	令和元年5月17日 午前9時30分～	市役所会議室	—
第3回	令和元年6月11日 午前9時30分～	市役所会議室	1人
第4回	令和元年7月16日 午前9時30分～	市役所会議室	—
第5回	令和元年8月27日 午前9時30分～	市役所会議室	—
第6回	令和元年9月18日 午前9時30分～	市役所庁議室	1人
第7回	令和元年10月31日 午前9時30分～	市役所会議室	5人
第8回	令和元年11月28日 午前9時30分～	市役所会議室	1人
第9回	令和元年12月16日 午後4時30分～	一宮保健福祉センター	—
第10回	令和2年1月23日 午前9時30分～	市役所会議室	—
第11回	令和2年2月18日 午前9時30分～	市役所会議室	1人
第12回	令和2年3月16日 午前9時30分～	市役所会議室	—

※傍聴の状況 5回 9人

### 4. 教育委員会の審議状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条に定める職務並びに同法第25条及び宍粟市教育委員会教育長事務委任規則の規定に基づき、令和元年度は29件について審議しました。

また、教育に関する事務事業の管理及び執行など、基本的な方針等に関する協議として、116件について協議ならびに報告を受け確認しました。

#### (1) 教育委員会審議案件一覧【29件】

議案番号	件名	議決日
第1号議案	令和元年度宍粟市一般会計6月補正予算（教育委員会関係）案について	R元. 5.17
第2号議案	宍粟市教育委員会公印規則の一部を改正する規則について	R元. 7.16
第3号議案	令和2年度使用学校教科用図書採択について	R元. 8.27
第4号議案	令和元年度宍粟市一般会計9月補正予算（教育委員会関係）案について	R元. 8.27
第5号議案	幼児教育・保育の無償化に伴う関係条例の整備に関する条例案について	R元. 8.27
第6号議案	宍粟市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案について	R元. 8.27
第7号議案	宍粟市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案について	R元. 8.27

議案番号	件名	議決日
第8号議案	宍粟市立幼稚園保育料徴収条例施行規則の廃止について	R元. 9. 18
第9号議案	宍粟市立神戸幼稚園及び宍粟立染河内幼稚園の廃止について	R元. 10. 31
第10号議案	宍粟市立はりま一宮こども園の設置について	R元. 10. 31
第11号議案	令和元年度宍粟市一般会計12月補正予算（教育委員会関係）案について	R元. 11. 28
第12号議案	宍粟市立認定こども園条例等の一部を改正する条例案について	R元. 11. 28
第13号議案	宍粟市生涯学習センター条例の一部を改正する条例案について	R元. 11. 28
第14号議案	令和2年度宍粟市立学校教職員の人事異動方針について	R元. 11. 28
第15号議案	令和2年度宍粟市立保育所・幼稚園・こども園職員の人事異動方針及び職員配置基準について	R元. 11. 28
第16号議案	宍粟市立伊水幼稚園の休園について	R元. 11. 28
第17号議案	宍粟市生涯学習センター学遊館に勤務する職員の勤務時間、休暇等に関する規程の一部改正について	R元. 12. 16
第18号議案	地方自治法第180条の7の規定による補助執行の協議について	R 2. 1. 23
第19号議案	令和元年度宍粟市一般会計3月補正予算（教育委員会関係）案について	R 2. 2. 18
第20号議案	令和2年度宍粟市一般会計予算（教育委員会関係）案について	R 2. 2. 18
第21号議案	令和2年度「宍粟の教育」について	R 2. 2. 18
第22号議案	県費負担教職員等の人事の内申について	R 2. 3. 16
第23号議案	宍粟市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則及び宍粟市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について	R 2. 3. 16
第24号議案	宍粟市教育委員会教育機関等の組織に関する規則及び宍粟市生涯学習センター管理規則の一部を改正する規則について	R 2. 3. 16
第25号議案	宍粟市教育委員会公印規則等の一部を改正する規則について	R 2. 3. 16
第26号議案	宍粟市立保育所運営規程及び宍粟市立認定こども園運営規程の一部を改正する規程について	R 2. 3. 16
第27号議案	宍粟市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則の一部を改正する規則について	R 2. 3. 16
第28号議案	宍粟市立学校用務員服務規程の一部を改正する規程について	R 2. 3. 16
第29号議案	「宍粟市読書活動推進計画」について	R 2. 3. 16

## (2) 教育委員会協議・報告事項一覧【116件】

番号	件名	協議・報告日
1	平成31年度学校園所長等一覧表について	H31. 4. 12
2	平成31年度宍粟市教育委員会事務局の組織について	H31. 4. 12
3	平成31年度児童生徒の状況について	H31. 4. 12
4	幼保一元化推進状況について	H31. 4. 12
5	学校給食における異物混入対応について	H31. 4. 12
6	平成31年度学校給食実施計画表について	H31. 4. 12
7	平成31年度スポーツ大会日程について	H31. 4. 12
8	宍粟市自然学校推進事業補助金交付要綱の一部改正について	R元. 5. 17
9	平成30年度3学期小中学校で認知したいじめ事案について	R元. 5. 17
10	令和元年度理科おもしろ実験教室の実施予定について	R元. 5. 17
11	幼保一元化推進状況について	R元. 5. 17
12	学校給食における異物混入の状況について	R元. 5. 17
13	宍粟市小中一貫教育の推進および整備方針について	R元. 6. 11
14	令和元年度兵庫県教育委員会・宍粟市教育委員会学校訪問について	R元. 6. 11
15	幼保一元化推進状況について	R元. 6. 11
16	校務用パソコンの購入について	R元. 6. 11
17	令和元年度宍粟市民大学予定講座について	R元. 6. 11
18	学校給食における異物混入対応について	R元. 6. 11
19	令和元年度宍粟市スポーツ推進委員について	R元. 6. 11
20	東京2020オリンピック聖火リレー（概要）について	R元. 6. 11
21	令和元年度主な人権啓発事業と人権学習事業について	R元. 6. 11
22	令和元年8月～ALTの配置予定について	R元. 7. 16
23	通学路交通安全推進協議会の協議状況について	R元. 7. 16
24	平成31年・令和2年度宍粟市いじめ問題対策委員会委員の委嘱について	R元. 7. 16
25	令和元年度宍粟市人権教育講演会について	R元. 7. 16
26	令和元年度スクイム市派遣事業について	R元. 7. 16
27	数学・理科甲子園ジュニア2019について	R元. 7. 16
28	（仮称）一宮南認定こども園新築工事について	R元. 7. 16
29	2019年度兵庫県人権教育研究大会西播磨地区大会について	R元. 7. 16
30	学校給食における異物混入対応について	R元. 7. 16
31	第17回泥んこdeがんばレー大会について	R元. 7. 16
32	東京2020オリンピック聖火リレー兵庫県内聖火ランナー募集について	R元. 7. 16
33	人権文化をすすめる市民運動推進月間事業について	R元. 7. 16

番号	件名	協議・報告日
34	「S1 グランプリ 2019」作品募集について	R元. 7. 16
35	学校給食における異物混入対応について	R元. 8. 27
36	「宍粟どうぶつ園」の実施について	R元. 8. 27
37	令和元年度第1学期「いじめ事案」について	R元. 9. 18
38	令和元年度全国学力・学習状況調査結果公表等について	R元. 9. 18
39	令和元年度スクイム市派遣団、訪問団受け入れの日程について	R元. 9. 18
40	数学・理科甲子園ジュニア 2019 の結果について	R元. 9. 18
41	宍粟市立認定こども園条例施行規則の一部改正について	R元. 9. 18
42	幼保一元化推進状況について	R元. 9. 18
43	小中学校における備品購入・工事の契約概要について	R元. 9. 18
44	学校給食における異物混入状況及び対策について	R元. 9. 18
45	東京 2020 オリ・パラ聖火宍粟市実行委員会について	R元. 9. 18
46	西播磨オータムスポーツフェスタについて	R元. 9. 18
47	宍粟市ロードレース大会参加者募集について	R元. 9. 18
48	各地域のウォーキングコースについて	R元. 9. 18
49	人権シンポジウムの開催について	R元. 9. 18
50	宍粟市特定教育・保育施設の給食費の徴収及び助成に関する規則の制定について	R元. 10. 31
51	宍粟市立保育所運営規程の制定について	R元. 10. 31
52	宍粟市立認定こども園運営規程の制定について	R元. 10. 31
53	宍粟市子育てのための施設等利用給付の支給に関する規則の制定について	R元. 10. 31
54	宍粟市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用者負担額を定める条例施行規則の一部改正について	R元. 10. 31
55	宍粟市特定教育・保育施設、特定地域型保育事業者及び特定子ども・子育て支援施設等の確認及び業務管理体制に係る届出に関する規則の全部改正について	R元. 10. 31
56	宍粟市子どものための教育・保育給付の支給認定及び子育てのための施設等利用給付認定に関する規則の全部改正について	R元. 10. 31
57	宍粟市立保育所条例施行規則の一部改正について	R元. 10. 31
58	宍粟市立認定こども園条例施行規則の一部改正について	R元. 10. 31
59	宍粟市保育の必要性の認定に関する規則の一部改正について	R元. 10. 31
60	宍粟市保育料軽減事業実施要綱の一部改正について	R元. 10. 31
61	宍粟市認定こども園運営費等補助金交付要綱の一部改正について	R元. 10. 31
62	宍粟市実費徴収に係る補足給付事業補助金交付要綱の一部改正について	R元. 10. 31

番号	件名	協議・報告日
63	宍粟市延長保育・一時預かり事業実施要綱の一部改正について	R元. 10. 31
64	宍粟市学童保育事業実施要綱の一部改正について	R元. 10. 31
65	宍粟市立幼稚園あずかり保育事業実施要綱の制定について	R元. 10. 31
66	令和2年度幼稚園・保育所・こども園の園児募集について	R元. 10. 31
67	令和2年度あずかり保育・学童保育の児童等募集について	R元. 10. 31
68	幼保一元化推進状況について	R元. 10. 31
69	令和元年度学力向上の取組スケジュールについて	R元. 10. 31
70	神野小学校屋内運動場トイレ改修工事の契約概要について	R元. 10. 31
71	宍粟市読書活動推進計画策定委員会要綱の制定について	R元. 10. 31
72	西播磨地区人権教育研究協議会指定人権教育実践発表会について	R元. 10. 31
73	宍粟市美術展審査結果について	R元. 10. 31
74	令和2年宍粟市成人式について	R元. 10. 31
75	学校給食における異物混入状況及び対策について	R元. 10. 31
76	第3子以降の学校給食費助成について	R元. 10. 31
77	第8回宍粟市ウォーキング大会について	R元. 10. 31
78	宍粟市ロードレース大会申込状況について	R元. 10. 31
79	宍粟市教育委員会事務事業（平成30年度実施事業）評価結果について	R元. 11. 28
80	令和2年度宍粟市就学援助制度について	R元. 11. 28
81	幼保一元化推進状況について	R元. 11. 28
82	学校給食における異物混入状況及び対策について	R元. 11. 28
83	12月人権週間関連事業・西播磨人権のつどいについて	R元. 11. 28
84	令和2年度宍粟市立幼稚園・こども園（幼稚園部）の入園受付状況について	R元. 12. 16
85	宍粟市幼保一元化推進計画の改定について	R元. 12. 16
86	令和2年度版「宍粟の教育」編集方針について	R元. 12. 16
87	教職員の勤務時間実態調査結果報告書について	R元. 12. 16
88	学校給食における異物混入状況及び対策について	R元. 12. 16
89	若者フォーラム in 宍粟について	R元. 12. 16
90	通学路交通安全対策の状況について（平成26年度～平成30年度）	R 2. 1. 23
91	未就学児が日常的に集団で移動する経路の交通安全対策の状況について	R 2. 1. 23
92	令和2年度「宍粟の教育」（案）について	R 2. 1. 23
93	幼保一元化推進状況について	R 2. 1. 23
94	令和2年度保育所・こども園、あずかり保育・学童保育入所申込児童数について	R 2. 1. 23

番号	件 名	協議・報告日
95	学校給食における異物混入状況及び対策について	R 2 . 1 . 23
96	第2回東京 2020 オリ・パラ聖火宍粟市実行委員会について	R 2 . 1 . 23
97	スポーツ関連行事予定について	R 2 . 1 . 23
98	人権文化をすすめる学習会について	R 2 . 1 . 23
99	しそう学校生き活きプロジェクト事業補助金交付要綱の一部改正について	R 2 . 2 . 18
100	令和元年度卒業（卒園）式、令和2年度入学式について	R 2 . 2 . 18
101	宍粟市内小中学校で認知したいじめ事案について（令和元年度2学期）	R 2 . 2 . 18
102	幼保一元化推進状況について	R 2 . 2 . 18
103	「宍粟市読書活動推進計画」の策定（一部改定）について	R 2 . 2 . 18
104	学校給食における異物混入状況及び対策について	R 2 . 2 . 18
105	宍粟市通学バス使用料の徴収及び減免に関する要綱の一部改正について	R 2 . 3 . 16
106	宍粟市立保育所条例施行規則の一部改正について	R 2 . 3 . 16
107	宍粟市立認定こども園条例施行規則の一部改正について	R 2 . 3 . 16
108	宍粟市立認定こども園通園バス運行要綱の一部改正について	R 2 . 3 . 16
109	宍粟市立幼稚園あずかり保育事業実施要綱の一部改正について	R 2 . 3 . 16
110	宍粟市学童保育事業実施要綱の一部改正について	R 2 . 3 . 16
111	宍粟市学童保育所通所支援事業補助金交付要綱の一部改正について	R 2 . 3 . 16
112	宍粟市生涯学習センター図書貸出要綱の一部改正について	R 2 . 3 . 16
113	宍粟市奨学生申請状況等について	R 2 . 3 . 16
114	令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について	R 2 . 3 . 16
115	幼保一元化推進状況について	R 2 . 3 . 16
116	学校給食における異物混入状況及び対策について	R 2 . 3 . 16

#### 5. 教育委員会委員の活動状況

月	内 容
4月	小・中学校入学式 退職者感謝状贈呈式
5月	兵庫県市町村教育委員会連合会定時総会・研修会
6月	兵庫県女性教育委員の会総会・研修会
7月	兵庫県移動教育委員会 小中一貫教育先進地視察 宍粟市総合教育会議 学校訪問

8月	中・西播磨地区市町教育委員会連合会総会・研修会 宍粟市人権教育講演会 兵庫県人権教育研究大会西播磨地区大会 全県夏季教育委員会研修会
9月	市町村教育委員研究協議会 体育祭・運動会
10月	学校訪問
11月	宍粟市総合教育会議 学校訪問
12月	はりま一宮こども園建築工事視察
1月	成人式 宍粟市教育研究大会
3月	小・中学校卒業式、幼稚園卒園式、神戸幼稚園閉園式 一宮南保育所閉所セレモニー

令和2年度（令和元年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価シート

《就学前教育・保育》 夢と希望を育み 豊かな人間性の基礎づくり

基本目標 1 発達や学びの連続性を踏まえた教育・保育内容の充実

※評価指標  
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる  
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	主な取組内容（事務事業）と実績	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の評価
<p>(1) 発達の過程を見通した教育・保育計画の作成と実践</p>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <p>① 「幼児期に育みたい3つの資質・能力」を踏まえ、それぞれの時期にふさわしい遊びや生活を積み重ねられるような教育・保育計画を作成し、実践・評価・改善を適切に行った。</p> <p>② 遊びの中の学びを大切に、自ら取り組もうとする意欲を育み、幼児期から児童期へのなめらかな連続に取り組んだ。</p> <p>③ 学校園所パートナーシップ事業において中学校区での連携・交流に取り組む、子ども同士の間ふれあいや職員間の情報共有を図った。</p> <p>④ 支援を必要としている子どもについても、保護者とともに教育・医療・福祉等の専門機関から助言を得ながら、一人ひとりに応じた指導に努めた。</p> <p>【実績】 ※%表記はアンケートによる</p> <p>① 教育・保育計画の作成 公立100%・民間56% 評価・改善の取組 公立100%・民間100%</p> <p>② 自ら取り組む意欲の育ち 公立100%・民間89%</p> <p>③ 中学校区での交流・連携 公立100%・民間100%</p> <p>取組のべ回数：352回</p> <p>④ 関係機関との連携 公立100%・民間100%</p> <p>※参考【H30実績】</p> <p>① 評価・改善を行う 公立100%・民間100%</p> <p>② 公立100%・民間88%</p> <p>③ 公立100%・民間100%</p> <p>取組のべ回数：408回</p> <p>④ 公立100%・民間100%</p>	<p>【取組の成果】</p> <p>昨年度の評価・保育計画や反省をもとに職員間で共通理解した上で、園所の実態に合った教育・保育計画を作成し、計画に基づき実践することができている。子どもたちが線り広げられるさまざまな遊びが学びや意欲につながっている。日々保育環境の工夫を行っている。学校園所パートナーシップ事業の取組は年々定着してきており、子どもたちの交流だけでなく職員間で情報共有を図る仕組みが、スムーズな就業につながるようになってきている。また、支援を必要とする子どもへのかわりについては、専門的な助言を受けたり、特別支援教育スーパーバイザー、保健師等の訪問も積極的に受けることで、有効な支援につながっている。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>幼児期に育みたい3つの資質・能力を踏まえた計画作成の肯定度が民間は低い、全ての園所で、保育者一人ひとりが、国の指針を踏まえた保育計画が子どもへの育ちにつながるのか理解を深める必要がある。</p> <p>保育所、こども園では長時間保育を行っているため、職員全員揃って協議し、共通理解をする時間とりにくいことが課題であるため園所で工夫をしている。また、学校園所パートナーシップ事業は、全ての園所で実施できているが、園所によって、交流・連携の取組姿勢に違いがあることから、子ども達の発達や学びは連続しており、小学校との連携が子どもの育ちに必要であるとの認識のもとで、各園所に連携の工夫を推奨する。</p>	<p>A</p>	<p>【意見等】</p> <p>就学前教育・保育と小学校とのパートナーシップについては、特別支援教育を効果的に進めたいだけでなく非常に重要なことだと考える。子どもたちの様子を小学校が事前に把握することは大事であり、本取組については今後も強力に進めていただきたい。</p> <p>A</p>
<p>(2) 保育者の専門性と資質向上</p> <p>【評価重点項目】</p>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <p>① 新しい教育・保育内容についての研修の充実や定期的に見直し、指導力の改善と向上に努めた。</p> <p>② 園・所評価を行い、教育・保育活動を定期的に見直し、指導力の改善と向上に努めた。</p> <p>【実績】 ※%表記はアンケートによる</p> <p>① 研修の実施 公立100%・民間89%</p> <p>② 自己評価の実施 公立100%・民間89%</p> <p>関係者評価の実施 公立100%・民間34%</p> <p>※参考【H30実績】</p> <p>① 公立100%・民間100%</p> <p>② 自己評価・関係者評価等の実施 公立100%・民間75%</p>	<p>【取組の成果】</p> <p>3法令の同時改訂(改定)後の幼児教育について、計画的に園内研修や園外研修に参加している。保育者一人ひとりにかわる保育者ができるような環境となるので、新しい教育・保育内容の理解を深め実践できている。各園所で工夫し、保育者の質の向上に努めている。また、各園所において自己評価を実施し、保育者の改善、質の向上につなげている。関係者評価を導入している園所では、外部からの意見を取り入れることで、保育の改善につなげることができている。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>園内研修や園外研修での研修内容を協議したり、報告したりして全職員で共通理解を深めていくことが重要である。長時間保育を行っているため、全職員での協議等は難しいのでグループに分けたり、リーダーが他の職員に報告するなど、各園所にあった工夫が必要である。また自己評価、関係者評価等を行うことで、保育の改善や質の向上につなげられるので、市として関係者評価を取り入れた評価体制の構築を引き続き推進していく。</p>	<p>B+</p>	<p>【意見等】</p> <p>民間の園・所評価について、自己評価については実施率が向上しているが、関係者評価についてはこれまでも低い率となっている。外部評価の重要性を感じており、現状の取組も含め、市として今後どのように関わっていくのか。</p> <p>【回答】</p> <p>国が定めた保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ、当該保育所の保育内容等について、自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。としたうえで、保育の内容等の評価に関し、保護者及び地域住民等の意見を聴くことが望ましい。」と定めている。そこで、公立の園所では、小学校の校長先生や保護者会の代表、地域の有識者の方に関わっていただき、全園所共通の保護者アンケートの実施等により、関係者評価を実施している。園独自の評価手法を取り入れることはハードルが高いので、民間の保育所にも、この仕組みへの参加を呼び掛けている。市が、現在は3園所のみの参加で34%という実績になっている。市の実施する関係者評価以外でも、何らかの手法により、保護者や地域住民等の意見を聴く場が確保できていければ良いが、そこまで確認ができていない。しかし、各園所からは、自己評価を含めて、何らかの評価実施と保育の改善が必要であるという回答を得ているため、特に保護者等外部の意見や、日々の保育に活かすこととの重要性について理解が進むよう呼び掛けていきたい。</p> <p>B+</p>
<p>(3) 自他を大切に心や態度の育成</p>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <p>① 友達のかかわり、自然の中での遊び、動植物とのふれあい、地域行事への参加等、多様な遊びや体験の中で自尊心を育み、自他を大切にすることを育んだ。</p> <p>② 「きまりの大切さを知る」「良いこと悪いこと判断ができる」「相手の思いに気づく」などを通して、社会生活に必要な習慣や態度を身につけ、人ととかわる力を育てた。</p> <p>③ 感じたこと、考えたことを自分なりの言葉や動作で表現したり、人の話を聞いたりすることを通して「伝えあう力」を育んだ。</p> <p>【実績】 ※%表記はアンケートによる</p> <p>① 自他を大切にすることを育む 【園所】公立100%・民間100% 【保護者】公立98%・民間96%</p> <p>② 人とかわる力を育む 【園所】公立97%・民間100% 【保護者】公立97%・民間96%</p> <p>③ 伝えあう力を育む 【園所】公立100%・民間100% 【保護者】公立98%・民間98%</p> <p>※参考【H30実績】</p> <p>① 【園所】公立100%・民間100% 【保護者】公立97%・民間98%</p> <p>② 【園所】公立100%・民間100% 【保護者】公立98%・民間99%</p> <p>③ 【保護者】3歳児96% 4歳児98% 5歳児98%</p>	<p>【取組の成果】</p> <p>子どもたちは多様な遊びの中で、友達とかかわり他児の姿に影響を受けたりしながら、できなかつたことができるようになり自信をつけたり、友達の良さに気づき相手を認めたりできるようになっている。また、友達と一緒に過ごすことの楽しさがわかり、思い通りにならないことがあっても我慢したり折り折り合いをつけたり、話し合ったりすることができるようになっている。保護者アンケートからも、子どもたちの育ちを実感しておられる保護者が多いので、引き続き保育の工夫をしていく。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>子どもたちに「人権感覚」を身につけるためには、保育者がしっかりとした人権感覚をもちかわることが大事である。そのために、今後引き続き保育者は研修に参加するなど人権感覚を高めていく必要がある。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>

令和2年度（令和元年度事業対象） 栄栗市教育委員会事務事業評価シート

《就学前教育・保育》 夢と希望を育み 豊かな人間性の基礎づくり

基本目標 2 子どもが健やかに育つ環境づくり

※評価指標  
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる  
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	主な取組内容（事務事業）と実績	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の主な意見・感想とそれに対する説明	委員評価
(1) 基本的な生活習慣の確立	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <p>①「早寝・早起き・朝ごはん」等、子どもの成長に欠かせない基本的な生活習慣の定着を家庭と連携を図りながら進めた。</p> <p>【実績】 ※%表記はアンケートによる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定着に向けての工夫を行った</li> <li>【園所】 公立100%・民間100%</li> <li>・身につけてきたと感じている</li> <li>【園所】 公立100%・民間100%</li> <li>【保護者】 公立95%・民間94%</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定着に向けての工夫と改善</li> <li>【園所】 公立100%・民間100%</li> <li>・身につけてきたと感じている</li> <li>【保護者】 公立94%・民間96%</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <p>基本的な生活習慣の定着に向けて継続した取組を行っているため、子ども自身の意識が高まったり、保護者の意識に変化が見られたりするようになり、肯定度も高くなっている。具体的な改善内容としては、早寝早起き習慣づく、自分から早く寝るようになる、朝ごはんをしっかりと食べる、登園時間が早くなるなどの成果が挙げられる。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>基本的な生活習慣を確立していくためには、保護者への意識付けが大事である。あわせて、子ども自身にも、「早寝・早起き・朝ごはん」の大事さを意識付けできるような保育の工夫を行い、継続的な取り組みを行うしていくことが必要である。</p>	A	A	
(2) 遊びを通して体力づくりの推進	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <p>①体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力の向上と健康な体づくりに取り組んだ。</p> <p>②小学校以降の運動習慣の定着につなげるために、いろいろな運動遊びを取り入れた。</p> <p>【実績】 ※%表記はアンケートによる</p> <p>①体を動かすことが好きになったと感じている</p> <p>【保護者】 公立98%・民間98%</p> <p>②運動遊びの工夫を行っている</p> <p>【園所】 公立100%・民間100%</p> <p>※参考【H30実績】</p> <p>①【保護者】 公立96%・民間97%</p> <p>②【園所】 公立100%・民間100%</p>	<p>【取組の成果】</p> <p>チャレンジタイムなど意図的に運動できる時間を設定したり、時季や育ちにあった運動遊びを取り入れるなど、各園所で運動できる環境を作ったり取り組んでいる。具体的な運動遊びとしては、リズムジャンプ、竹馬、鉄棒、しっぽとり、フラフープ、じゃれっこ体操、マラソンなどである。日頃から継続して運動遊びを取り入れることで、リズム感がよくなったり、体幹がしっかりしたりしてきたり、持久力がついたりしてきている。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>今後も各園所で子どもたちが体を動かすことが楽しいと感じられるような保育の工夫を行い、継続して運動遊びができる環境を作っていく。</p>	A	A	
(3) 教育・保育環境の整備 【評価重点項目】	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <p>①すべての子どもへの教育・保育の充実を図るため、各地域の実情に応じた教育・保育環境の整備に努めた。</p> <p>【実績】</p> <p>①子ども園の整備状況 ちくさ杉の子ども園(H27) みのり子ども園(H28) 戸原子ども園(H31) 一宮北子ども園(H31) はりま一宮子ども園(R1整備※R2.4開園)</p> <p>※参考【H30実績】</p> <p>①子ども園の整備状況 ちくさ杉の子ども園(H27) みのり子ども園(H28) 戸原子ども園(H30整備※H31.4開園) 一宮北子ども園(H30整備※H31.4開園)</p>	<p>【取組の成果】</p> <p>一宮南中学校区において、令和2年4月1日開園に向けて、はりま一宮子ども園の園舎を整備した。</p> <p>・山崎町内の幼児一元化推進に向けて、こども園4園を整備する計画を策定し、保護者や地域の方を対象に、新園建設に向けた協議を開始した。</p> <p>・平成21年度に策定した幼児一元化推進計画の計画期間が満了したことを受けて、令和7年度末まで計画期間の延長を図った。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>幼児教育・保育の無償化が実施され、幼稚園の園児数が減少している。少人数のクラスで、しっかりと保育ができる反面、子ども園に必要ない集団の確保が図れず、幼児期の発達に必要な多様な経験の機会が損なわれている。保護者や地域との丁寧な協議により、引き続き、子ども園の育ちに必要ない集団の確保と、保護者の多様な保育ニーズに応えられる保育環境の整備に取り組む。</p>	B+	B+	<p>【意見等】</p> <p>令和元年10月からの保育料の無償化により、保護者のニーズもこれまでも大きく変わってきていることが予想される。幼稚園の園児数も減少しているとのことだが、今後、どのようななかたちで子育て世代の声を聞いて取組を進められるのか。</p> <p>【回答】</p> <p>近年、核家族化や若い子育て世代の働き方等の変化により、保育のニーズが多様化してきていて、幼稚園の短時間保育が減少し、保育所の給食を含む、土曜日も含めた長時間保育のニーズが増加している。また、少子化による子ども数の減少により、幼児期の子どもの育ちに必要ない集団規模を確保することや大きな課題となっている。そこで、市では、幼児一元化により施設の集約、再編により、子ども数の集約の確保とこども園の整備により、多様な保育ニーズに応えられる保育環境の整備を推進している。こども園の整備にあたっては、引き続き、保護者や地域の皆さんの意見をよく聞きながら、子育て世代のニーズに合った、子育て支援となるような保育環境の整備に努めている。</p>

令和2年度（令和元年度事業対象） 中央市教育委員会事務事業評価シート

《就学前教育・保育》 夢と希望を育み 豊かな人間性の基礎づくり

基本目標 3 安全・安心で開かれた保育所・幼稚園・こども園づくり

※評価指標  
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる  
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	主な取組内容（事務事業）と実績	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の主な意見・感想とそれに対する説明	委員評価	
(1) 子育て支援の充実	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <p>①園庭開放や保護者の交流の場づくり、子育ての情報提供などを行い、身近な子育て支援活動の充実に努めた。</p> <p>②絵本の貸し出しを行い、家庭において親子のふれあいの一つとして絵本の読み聞かせを応援した。</p>	<p>【実績】 ※%表記はアンケートによる</p> <p>①園庭開放等年間平均回数 園庭開放27回、行事9回</p> <p>②-1貸出し絵本、読み聞かせの啓発 【園所】 公立100%・民間56%</p> <p>②-2家庭で読み聞かせをしている 【保護者】 公立87%・民間77%</p> <p>②-3貸出し絵本があると読み聞かせをしている 【保護者】 公立96%・民間78%</p>	<p>【取組の成果】</p> <p>全園所において園庭開放を実施し、子育て支援活動が定着してきている。在宅の幼児にとってもよい遊び場になっていたり、保護者が気軽に子育てについて職員に相談したり、保護者同士で会話ができたりするなど、子どもにとっても親にとっても有意義な場となっている。また、絵本の読み聞かせは家庭によっても親によっても有意義なもの、貸し出し絵本や園所からの啓発により保護者の意識の向上につながっている。</p>	B+		B+
(2) 防災・安全教育の推進 【評価重点項目】	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <p>①子どもたちの安全を守るため、家庭や地域と連携を図りながら、防災・安全教育に取り組んだ。</p> <p>②園所の実態に応じた安全管理マニュアルを作成し、危機管理意識の向上に努め、体制整備を行った。</p>	<p>※参考【H30実績】</p> <p>①防災教育11回、安全教育5回</p> <p>②公立100%・民間89%</p>	<p>【取組の成果】</p> <p>ほとんどどの園で安全管理マニュアルは作成しているが、未作成の園においてでも消防計画や避難確保計画等を作成しているため、今後マニュアル化していく。災害等は突然起こるため、定期的に職員間でいざという時の対応等について共通理解を図っておく必要がある。保護者にも、定期的に取組みの内容を伝え、共通理解ができるようしておく。</p>	B+	<p>【意見等①】</p> <p>家庭や地域と連携した取組とあるが、具体的にどのどのような取組をされたか。</p> <p>【回答①】</p> <p>参観日において、保護者に対して防災の話をしたり、園での取組や避難計画の説明を行った後、引き渡し訓練を行っている。また、保護者を対象とした心肺蘇生法の講習を行っているほか、親子防災教室という形で消火訓練や煙体験などの取組も行っている。地域との連携の部分では、川の氾濫を想定した水害訓練を実施し、中学生と連携して避難するといった取組を行っているところもある。</p> <p>【意見等②】</p> <p>昨年、滋賀県大津市で園児の集団が巻き込まれる交通事故等があったが、その事故をふまえた子ども安全管理・シミュレーション等具体性のある取組はされたのか。</p> <p>【回答②】</p> <p>交通安全教育を行うにあたって、園外へかける際の道を実際に歩いて、写真を撮影しながら安全確認を行い、危険箇所の把握や迂回路の設定などについて計画に盛り込んでいる。大津市の事故をふまえて、道路管理者や警察などの関係機関と連携し、子どもの散歩コースにおける危険箇所を洗い出し安全対策の取組を行っている。また、交通安全教室としてうさぎちゃんクラブを行っている。園児が歩ルルートに対しては、交通量の少ない道を見直し、共通理解のもとで行うようにしている。</p>	B+

令和2年度（令和元年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務局事業評価シート

《学校教育》 夢と自信をもち 魅力あふれる 宍粟の明日を担う人づくり

基本目標 1 夢と自信をもち、可能性に挑戦する力を育てる

※評価指標  
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる  
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	主な取組内容（事務事業）と実績	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の評価
<p>(1) 急激に変化する社会を生き抜く上で必要な力の育成 【評価重点項目】</p>	<p>【取組内容（事務事業）】                      ◇学校・家庭・地域連携・協働による地域性を活かした教育活動を推進による、主体的に課題を解決しようとする子どももの育成                      ◇コミュニティ・スクールの推進                      ◇小中一貫教育の推進</p> <p>【実績】                      ◇3校区（千種中学校区、波賀中学校区、一宮北中学校区）においてコミュニティ・スクールの実施                      ◇一宮北中学校区では、小中学校でひとつの運営協議会を設置（H31より）                      ◇一宮北中学校区において、一宮北中学校小中一貫教育推進委員会（準備委員会）を開催</p>	<p>【取組の成果】                      ◇千種中学校区における保幼小中高連携の取組や、一宮北中学校区における幼小中合同の運動会や学習発表会の実施など、学校と地域が一体となる教育活動を推進することができている。                      ◇一宮北中学校区においては、令和3年からの併設型小・中学校「一宮北小中学校（仮称）」のスタートに向け、一宮北小中学校小中一貫教育推進常任委員会（準備委員会）を開催し、カリキュラム等小中一貫教育推進の準備を進めている。</p> <p>【今後の課題】                      ◇すでに取り組みを進めている3中学校区だけではなく、一宮南中学校区、山崎の3中学校区においても、コミュニティ・スクールの実施による、学校・家庭・地域の連携・協働による教育活動のより一層の推進をめざす必要がある。                      ◇令和3年度スタートの「一宮北小中学校（仮称）」だけではなく、千種小・中学校、波賀小・中学校と小中一貫教育を推進し、令和9年度までに全中学校区での推進により、主体的に課題を解決する子どももの育成をめざす。</p>	B+	B+
<p>(2) 「生きる力」の育成～確かな学力・豊かな心・健やかな体～</p>	<p>【取組内容（事務事業）】                      ◇主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり                      ◇しそう学力向上検討委員会                      ◇しそう学力向上グラウンドルール（学力向上プラン）</p> <p>【実績】                      ◇しそう学力向上プラン2019「振り返り」の目的を明確にした板書型指導案の研究                      ◇令和元年度全国学力・学習状況、生活習慣等調査の「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする」とができていますか」が「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答えた児童生徒の割合                      ・宍粟市小学生81.1%                      ・全国小学生74.1%                      ・宍粟市中学生81.3%                      ・全国中学生72.8%</p>	<p>【取組の成果】                      ◇すべての教職員が、校務サーバーに保存した「しそう学力向上検討委員会」の提言やグラウンドルールの確認することができている。活用したことで、授業を進めることができている。                      ◇小・中学校の各教科部会において、しそう学力向上グラウンドルールや学力向上プランを参考にしたり、活用したりする研修会を実施することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践を進めることができている。</p> <p>【今後の課題】                      ◇今後も、しそう学力向上検討委員会の提言や学力向上グラウンドルールの活用等により、新学習指導要領上で位置づけられた「主体的・対話的で深い学び」の視点を生かした授業改善を進め、新しい時代に必要となる資質・能力を育んでいきたい。</p>	B+	B+

令和2年度（令和元年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価シート

《学校教育》 夢と自信をもち 魅力あふれる 宍粟の明日を担う人づくり

実践目標	主な取組内容（事務事業）と実績	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の主な意見・感想とそれに対する説明	委員評価
<p>(2)「生きる力」の育成～確かな学力・豊かな心・健やかな体～</p>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇道徳や体験学習の充実により、豊かな心を育む教育活動を推進</li> <li>◇道徳教育に関する実践的な指導力向上のための研修会</li> <li>◇ふるさと宍粟探検隊</li> <li>◇環境体験学習</li> <li>◇自然学校</li> <li>◇トライやる・ウィーク</li> <li>◇青少年芸術体験事業～わくわくオケケストラ教室～</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇道徳教育に関する実践的な指導力向上のための研修会実施</li> <li>◇ふるさと宍粟探検隊の実施 学校</li> <li>◇全小学校4年生で実施（内容） 学校</li> <li>◇国島山など</li> <li>◇環境体験学習の実施</li> <li>◇全小学校で年3回以上実施</li> <li>◇※宍粟独自取組</li> <li>◇全小学校5年生（市内で実施）</li> <li>◇※市内実施は宍粟独自取組（内容）カヌー体験、宍粟の山への登山など</li> <li>◇トライやる・ウィークの実施</li> <li>◇全中学校で実施</li> <li>◇※（実施箇所）農園・お寺・観光施設・商業施設など</li> <li>◇青少年芸術体験事業～わくわくオケケストラ教室～の実施状況</li> <li>◇市内全小学1年生が参加（年1回）</li> </ul> <p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「しーたんチャレンジ」事業</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇道徳教育に関する実践的な指導力向上のための研修会</li> <li>◇道徳教育大学院 谷田増幸教授を講師として研修会を実施し市内全小中学校担当教員が参加。自己を更につめ、多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めていけるような授業とするために、授業の中心場面で多様な発言を引き出すための教師の働きかけについて研究を深めることができた。</li> <li>◇トライやる・ウィーク</li> <li>◇全国学力・学習状況、生活習慣等調査より、「今住んでいる地域の行事に参加している」児童の割合は94.2%と、全国平均68.0%を大きく上回っており、中学校でも参加している生徒の割合は86.4%と、国平均50.6%を大きく上回っている。「宍粟の良さを知り、宍粟を愛する」子どもの育成について大きな成果を得ている。</li> <li>◇青少年芸術体験事業～わくわくオケケストラ教室～</li> <li>◇市内全小学1年生が参加。実施後のアンケートからも「参加して良かった」、「オケケストラ演奏が良かった」の項目については100%の回答であった。豊かな感性を身に付けた人づくりに大きな影響をもたらしている。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇道徳教育に関する実践的な指導力向上のための研修会</li> <li>◇課題としては、中心発問、及びその後の問い返し・切り返しに注目し、これら工夫することによって児童生徒の対話を引き出せるような授業づくりに取り組んでいく必要があるが、谷田教授には2年間講師として宍粟市にご指導をいただいた必要がある。</li> <li>◇トライやる・ウィーク</li> <li>◇生徒数減少による、一事業所への複数配置が難しい。</li> <li>◇過疎化による受入事業所の減少。</li> <li>◇コロナウイルス感染予防対策として、受入可能事業所が減少していく場合への対応。</li> <li>◇青少年芸術体験事業～わくわくオケケストラ教室～</li> <li>◇バス利用代金の上昇に伴う、補助金が必要であるが、現在の市の財政上、本事業のために計上することが難しい。</li> </ul>	B+		B+
<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「しーたんチャレンジ」事業 100%実施</li> <li>※H27から幼稚園・公立保育所・こども園でも実施</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果より、本市の子どもの体力・運動能力については多くの種目で全国平均値を上回っている。ソフトボール投げ（瞬発力）、反復横とび（敏捷性）、シャトルラン（持久力）に優れ、運動やスポーツが「好き」「やや好き」な子どもの割合は全国よりも高い割合である。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇小中学校ともに長座体前屈（柔軟性）には引き続き課題があった。また、小学校では握力（筋力）と上体起こし（筋持久力）についても全国平均を下回りました。今後も「しーたんチャレンジ」事業（100%達成）を継続していくことで改善を図る予定である。</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果より、本市の子どもの体力・運動能力については多くの種目で全国平均値を上回っている。ソフトボール投げ（瞬発力）、反復横とび（敏捷性）、シャトルラン（持久力）に優れ、運動やスポーツが「好き」「やや好き」な子どもの割合は全国よりも高い割合である。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇小中学校ともに長座体前屈（柔軟性）には引き続き課題があった。また、小学校では握力（筋力）と上体起こし（筋持久力）についても全国平均を下回りました。今後も「しーたんチャレンジ」事業（100%達成）を継続していくことで改善を図る予定である。</li> </ul>	B+		B+

令和2年度（令和元年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務局事業評価シート

《学校教育》 夢と自信をもち 魅力あふれる 宍粟の明日を担う人づくり

実践目標	主な取組内容（事務事業）と実績	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の評価
<p>(2)「生きる力」の育成～確かな学力・豊かな心・健やかな体～</p>	<p>【取組内容（事務事業）】                      ◇「早寝・早起き・朝ごはん」運動の推進と、地産・地消の理念を活かした学校給食を通して、健康増進</p> <p>【実績】                      ◇地産地消率等                      ①米を含む73.2%（対前年度△1.7%）                      米を含まない58.2%（対前年度△2.2%）                      ※地産地消率については、使用する全野菜（果物は含まない）の重量に占める市内産の比率で、こんにやく・味噌・豆腐など加工品は含まないが、これらに大豆・こんにやく芋などを原材料に提供した場合の重量は加算する。                      ②野菜以外で市内産の状況                      ・鹿肉：鹿肉221kg（H30：157kg）                      ・牛肉：宍粟牛58kg（H30：335kg）、黒毛和牛503kg（H30：310kg）                      ・水産物：アユ6,930尾、アマゴ6,722尾                      ・ぶどう、ブルーベリー：100%地元産使用                      ③食育展（参加者数232名、宍粟産黒毛和牛焼肉并試食数148食）</p>	<p>【取組の成果】                      食育展での学校の取組発表から、学校給食に郷土料理の献立を取り入れるなど、食文化の伝承に取り組んでいる成果が見られる。宍粟の伝統食に愛着と誇りを持ち、未来の宍粟へつなげる食育を今後も充実させる。                      また、給食たよりを通して、地元生産者の顔が見える給食の提供を行うことができた。</p> <p>【今後の課題】                      ◇地産地消率は、元年度は73.2%と平成30年と比較して△1.7%となっておりますが、これは、重量があるカブ、白菜、じゃがいもが市内産で不作なため割合が落ちたためである。                      平成21年度に設置した保冷庫を活用することで玉ねぎ・ジャガイモの安定した供給を得ることができている。ただし、天候・酷暑等による不作は、元年度のように薬の低下につながることもなるため、今後、給食用食材の生産者拡大と更には供給の少ない食材の作付けをJA等生産者部会などで提案し、品数・数量の確保をめざす。</p>	<p>B+</p>	<p>B+</p>
<p>(3)学ぼうとする意欲を支える体制づくり</p>	<p>【取組内容（事務事業）】                      ◇宍粟市勤務時間適正化推進会議                      ◇「ノー残業デー」や「ノー残業デー（定時退勤日）」の実施による、教職員がゆとりを持って、子どもと向き合うことができる時間の確保                      ◇「ノー会議デー」「ノー部活デー」：週1回以上の実施                      ◇教職員一斉定時退勤日：小学校月1回、中学校学期1回の実施</p> <p>【実績】                      ◇宍粟市勤務時間適正化推進会議の開催（年間2回）                      ◇「ノー会議デー」「ノー部活デー」を週1回以上の実施                      ◇教職員一斉定時退勤日を小学校で月1回、中学校で学期1回実施</p>	<p>【取組の成果】                      ◇宍粟市勤務時間適正化推進会議を年間2回開催し、兵庫県の重点施策を確認したり、各学校での取組を交流することができた。                      ◇「ノー部活デー」の100%の実施により、部活動運営の適正化が進んでいる。また、週1日以上の「ノー会議デー」についても100%実施することができている。                      ◇「ノー残業デー（定時退勤日）」の小学校月1回、中学校学期1回の取組を実施することができた。</p> <p>【今後の課題】                      ◇今後も「ノー会議デー」や「ノー残業デー（定時退勤日）」「ノー部活デー」を100%実施するとともに、教職員の意識改革を進め、教職員がゆとりを持って、子どもと向き合うことができる時間の確保していく必要がある。平成30年度から、小学校で月1回の一斉定時退勤日が市内統一日で実施されてきている。中学校においても学期に1回の実施から週1回に取組を拡大していく必要がある。</p>	<p>B+</p>	<p>B+</p>
<p>【評価重点項目】</p>	<p>【取組内容（事務事業）】                      ◇子どもたちの健全な成長のために、個性を尊重し、練習への取組方など過程を大切にすする部活動を実施                      ◇部活動の在り方に関する宍粟市の方針の策定                      ◇「しそ」の部活動生き生きプラン」の策定</p> <p>【実績】                      ◇兵庫県教育委員会が策定した「いきいき運動部活動（4訂版）」を原案とし、宍粟市の地域性を鑑みながら、適切な部活動運営等に係る方針を策定するため、「宍粟市部活動の在り方について」検討委員会を年間2回開催                      ◇部活動指導員の配置（13名）</p>	<p>【取組の成果】                      年間を通じて月当たり8日程度の休業日を設定。（平日及び土日等の休業日にそれぞれ4日程度設定し、週当たり2日以上以上の休業日を設定）1日の実練習時間は、平日2時間程度、土日等の休業日は3時間程度とする。</p> <p>【今後の課題】                      ◇練習試合及び各種大会については実情を勘案して柔軟に対応することができるように配慮しつつ、今後も継続して適切な部活動の在り方について検討及び検証を重ねる。                      ◇市内中学校では生徒数が減少し、部活動数の減少や複数教員による合同チームの増加等、円滑な部活動運営が困難になりつつある。また、若い教師の増進に併い、部活動顧問教師の若年化が進んでおり、外部指導者の不足と相まって顧問教師の負担感が増している。これらの状況から、さらなる部活動指導員の導入を促進し、宍粟の部活動の活性化を図る。</p>	<p>A</p>	<p>A</p> <p>委員の主な意見・感想とそれに対する説明</p> <p>【意見等①】                      近年の各学校の部活動の状況（廃部や合同チーム）はどうか                      【回答①】過去10年間でみると、北部の学校を中心に、1校につき1～2部の廃部が行われているものの、市全体で大きな部活動の再編成は行われていない。しかしながら、現在も1校だけのチーム編成が困難な学校については、他校との連合により取り組んでいる。（野球部：山崎西・一宮南、ソフトボール部：山崎南・一宮北）                      【意見等②】                      今後、さらに生徒数が減少することが予想されるが、部活動の在り方についてどのように考えられているか。部活動指導員が配置されても部員数がいなければ活性化に繋がらないのでは。                      【回答②】                      平成31年4月の中学3年生の総数は324人で、これが10年後には236人の見込みで100人程度減少することになる。このようなかで、部活動指導員の配置については、生徒数が減少していく中でも、部活動に取り組む生徒の技術面や精神面において有効な取組であると考えており、今後も指導内容の質向上に努め持続可能な部活動を進めていきたい。</p>

令和2年度（令和元年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価シート

《学校教育》 夢と自信をもち 魅力あふれる 宍粟の明日を担う人づくり

実践目標	主な取組内容（事務事業）と実績	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の主な意見・感想とそれに対する説明	委員評価
<p>(4)宍粟の未来につながる地域と連携したキャリア教育の推進</p>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇宍粟の自然や人材などの地域資源を活用した、体験学習やふさと学習の体系的な実施</li> <li>◇環境体験学習（小学校3年生）</li> <li>◇しそう森林の探検隊（小学校4年生）</li> <li>◇自然学校（小学校5年生）</li> <li>◇トラライヤル・ウィーク（中学校2年生）</li> <li>◇地域と連携した魅力ある学習活動の実施（小中全学年）</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇環境体験学習を全小学校で年間3回以上100%実施</li> <li>◇しそう森林の探検隊を全小学校で100%実施</li> <li>◇自然学校を市内で全小学校で100%実施</li> <li>◇トラライヤル・ウィークを全中学校で100%実施</li> <li>◇地域人材（ゲストティーチャー）を活用した地域と連携した魅力ある学習活動を全小中学校で100%実施</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇環境体験学習を全小学校で年間3回以上実施</li> <li>◇しそう森林の探検隊を全小学校で実施（国見山等）</li> <li>◇自然学校を市内で全小学校で実施（カヌー体験、氷ノ山登山等）</li> <li>◇トラライヤル・ウィークを全中学校で実施（商業施設、農園等）</li> <li>◇地域人材（ゲストティーチャー）を活用した地域と連携した魅力ある学習活動を全小中学校で実施</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇3年生での「環境体験学習」、4年生の「しそう森林の探検隊」、5年生での宍粟市内での「自然学校」、中学校2年生での「トラライヤル・ウィーク」と、宍粟の自然や人材を活用した体験学習に系統的に取り組むことができています。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇さまざまな体験学習や総合的な学習の時間の「ふさと学習」は、「宍粟の良さを知り、宍粟を愛する」子どもの育成につながっている。今後、宍粟市の資源を活用した体験学習や「ふさと学習」に、小中学校すべての学年においての系統的な取組を継続していきたい。</li> </ul>	A		A
<p>(5)さまざまな支援を必要としている子どもへの対応</p>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇地域や地元企業と連携した、自分の将来への関心を高めるキャリア教育・職業教育の推進</li> <li>◇県立ものづくり大学「ものづくり体験学習」</li> <li>◇プロから学ぶ創造力育成事業</li> <li>◇キャリア教育充実事業（西播磨地区）</li> <li>◇「子どもたちに身に付けさせたい力」で考えるキャリア教育の推進」と題した講演会を教育研究大会で実施</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇県立ものづくり大学「ものづくり体験学習」を全中学校で100%実施</li> <li>◇「プロから学ぶ創造力育成事業」を全中学校で実施（3年間で7校100%の実施）</li> <li>◇キャリア教育充実事業（西播磨地区）の実施</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇県立ものづくり大学「ものづくり体験学習」を全中学校で100%実施</li> <li>◇「プロから学ぶ創造力育成事業」を全中学校で実施（3年間で7校100%の実施）</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇県立ものづくり大学における「ものづくり体験学習」や地元の企業や同じ中学校出身の先輩方から学ぶ「プロから学ぶ創造力育成事業」の実施により、ものづくりの楽しさや職業に対する興味関心を高めるとともに、働くことへの意識付けを行っている。</li> <li>◇キャリア教育充実事業（西播磨地区）の実施により、兵庫県版「キャリアノート」の活用についての研究を推進することができた。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇体験活動や進路指導の充実により、キャリア教育や職業教育のより一層の充実を図る必要がある。</li> </ul>	A		A
	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇障がいのある状態や支援ニーズに応じた合理的配慮により、すべての子どもが活動しやすい学校園所づくりの推進</li> <li>◇宍粟市特別支援教育総合サポート事業</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇特別支援教育スーパービジョン</li> <li>◇学校園所職員との教育相談：111回</li> <li>◇発達検査の対応：41回</li> <li>◇就学相談（保護者面談会）：82回</li> <li>◇特別支援教育コーナーネットワーク会議：3回</li> <li>◇特別支援教育推進員研修会：3回</li> <li>◇教育連携連絡会議：3回</li> <li>◇教育支援委員会：2回</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇特別支援教育スーパービジョン</li> <li>◇学校園所職員との教育相談：125回</li> <li>◇発達検査の対応：35回</li> <li>◇就学相談（保護者面談会）：79回</li> <li>◇特別支援教育コーナーネットワーク会議：3回</li> <li>◇特別支援教育推進員研修会：3回</li> <li>◇教育連携連絡会議：3回</li> <li>◇教育支援委員会：3回</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇個別のニーズを把握するため、サポートファイルの作成を就学前から子どもの実態を把握するため、学校園所訪問を実施し、教職員や関係機関と連携しながら教育相談を進めていくことができた。</li> <li>◇兵庫県特別支援教育第3次推進計画に基づき、各小学校において「すべての教職員のための授業改善研修会」を実施し、新学習指導要領の解説を用いてすべての児童に対して特別支援教育の視点をもち取組を推進することができた。</li> <li>◇通級による指導に関しては、個別のニーズを把握するため、発達検査の実施やサポートファイルの作成を進め、学校生活支援教員と定期的に情報共有し、自立活動の内容検討を図ることができた。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇昨年度は小学校、本年度は中学校で「すべての教職員のための授業改善研修会」が実施される。すべての子どもニーズに応じた特別支援教育の視点に立った対応ができるよう、各学校長や特別支援教育コーディネーターの先生方と連携し、定期的に実態を把握しながら教職員の理解を深めていくことが必要である。</li> <li>◇サポートファイルもしくは個別の指導計画が作成されている幼児児童生徒に対して切れ目のない支援を提供できるよう、学校園所間だけでなく、児童保育所とも情報共有の場を設けていく予定である。</li> </ul>	B+		B+

令和2年度（令和元年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務局事業評価シート

《学校教育》 夢と自信をもち 魅力あふれる 宍粟の明日を担う人づくり

実践目標	主な取組内容（事務事業）と実績	取組の成果及び今後の課題	委員の主な意見・感想とそれに対する説明	委員評価
<p>(5)さまざまな支援を必要としている子どもへの対応</p>	<p>【取組内容（事務事業）】 ◇日本語指導が必要な子ども（外国人児童生徒など）に対する多面的な支援</p> <p>【実績】 ◇宍粟市多文化共生サポーター派遣事業 2人（小学校2校、派遣回数：延べ97回）</p> <p>※参考【H30実績】 ◇宍粟市多文化共生サポーター派遣事業 2人（小学校2校、派遣回数：延べ111回）</p>	<p>【取組の成果】 異なる文化や生活習慣、価値観に対する理解を深めるために、外国人児童が母国や母語の紹介をしたり自分の意見を適切に表現したり、協力してさまざまな活動を行うことができた。周囲の児童も異文化を理解し、違いを認め尊重する心を養い、コミュニケーション能力を高めることができた。</p> <p>【今後の課題】 市の財政状況が厳しい状況であるが、突然の来日等による多文化共生サポーターの派遣が必要となるケースに係る予算計上について、市の理解を求めていく必要がある。また、多文化共生サポーターを活用した日本語指導のみならず、母国の文化や言語、民族、宗教、生活習慣、価値観に対する理解を図っていくことが求められる。</p>	<p>委員の主な意見・感想とそれに対する説明</p>	A
<p>(6)多様な人材と協働する力の育成 【評価重点項目】</p>	<p>【取組内容（事務事業）】 ◇地域のさまざまな世代の人々との協働による、望ましい人間関係づくり ◇学校園所パートナーシップ ◇地域人材を活用したふるさと学習 ◇地域行事への参加</p> <p>【実績】 ◇令和元年度全国学力・学習状況、生活習慣等調査の「今住んでいる地域での行事に参加していますか」が「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合 ・宍粟市小学生94.2%（全国小学生68.0%） ・宍粟市中学生86.4%（全国中学生50.6%）</p> <p>※参考【H30実績】 ◇平成30年度全国学力・学習状況、生活習慣等調査の「今住んでいる地域での行事に参加していますか」が「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合 ・宍粟市小学生86.8%（全国小学生62.7%） ・宍粟市中学生77.6%（全国中学生45.6%）</p>	<p>【取組の成果】 ◇学校園所による園児・児童・生徒の交流や地域人材を活用したふるさと学習等は、世代を超えた体験活動の機会となり、望ましい人間関係づくりにつながっている。 ◇全国学力・学習状況、生活習慣等調査結果でも、「今住んでいる地域の行事に参加している」児童生徒の割合は全国平均、県平均を大きく上回っており、宍粟の良さを知ったり、地域の中で望ましい人間関係づくりを学ぶ大切な機会となっている。</p> <p>【今後の課題】 コミュニケーションや小中一貫教育の推進事業など、地域とともに新しい学校づくりを推進していく必要がある。</p>	<p>【意見等①】 児童生徒数が減少していく中で、地域の方々と学習の場において、大人の人数の方が多いことがある。その場合、子どもたちが自らやるのではなく受け身になってしまいがちになってしまうのではという懸念がある。</p> <p>【回答①】 回数を重ねていくと、どうしても一方通行になりがちになるということも課題として認識している。体験学習の進め方について、工夫あるいは改善していけるよう検討を進める。</p> <p>【意見等②】 新型コロナウイルスによって、授業時数の確保について本当に苦勞されたかと思っている。そういった中で学校現場において余裕が少しでもあるのか、本事業による取組も大切であると思うが、学力をつけることも重要であり、そのあたりの課題はどうとらえているか。</p> <p>【回答②】 コロナ禍において、教員が出席しなければならぬ研修会等がWeb会議になったり、オンラインによる研修になったため、教員が学校を不在にすることが例年よりも少なく、授業時数を確保できた。現段階で必要な授業時数を消化できている。</p> <p>【意見等③】 全国学力・学習状況調査の結果について、宍粟の子どもたちは十分に学力はついてきているのか。その学力を保障していく時間について、放課後も中々取れないと思う。そのあたりについてどう取り組んでいくか。</p> <p>【回答③】 全国平均の±5ポイント以内が適切な範囲として評価できるとしている。宍粟市の結果としてはマイナス5ポイントを下回っている。個別指導だけでなく授業改善にも取り組み、学力の向上に努めたいと考えている。</p>	B+
<p>【取組内容（事務事業）】 他校との交流により、協働する力の育成事業（連携校との自然学校・体験学習の実施）</p> <p>【実績】 ◇交歓会実施回数 1回 ◇海と山の交歓会 ・参加児童数：一宮小学校（淡路市）5年45名、一宮北小学校5年27名 ・訪問日：一宮北小学校から一宮小学校へ7月5日（金）一宮小学校から一宮北小学校へ10月15日（火）</p> <p>※参考【H30実績】 ◇交歓会実施回数 1回 【海と山の交歓会】 ・参加児童数：一宮小学校（淡路市）5年31名、一宮北小学校5年30名 ・訪問日：一宮北小学校から一宮小学校へ7月18日（水）一宮小学校から一宮北小学校へ10月16日（火）</p>	<p>【取組の成果】 他地域との交流活動からさまざまな地域の良さに気づくとともに、ふるさと宍粟の良さを再発見し、その良さを引き継いでいこうとする心情を育むことができた。</p> <p>【今後の課題】 小学生の視点で、兵庫の地域の自然・産業・歴史・伝統・文化等について新たな価値を見出し、地域の在り方を考察する力を育成するために、今後体験事業を続けていく必要がある。そのためにも、交歓会の継続に係る予算確保が必要となる。</p>	<p>【取組の成果】 他地域との交流活動からさまざまな地域の良さに気づくとともに、ふるさと宍粟の良さを再発見し、その良さを引き継いでいこうとする心情を育むことができた。</p> <p>【今後の課題】 小学生の視点で、兵庫の地域の自然・産業・歴史・伝統・文化等について新たな価値を見出し、地域の在り方を考察する力を育成するために、今後体験事業を続けていく必要がある。そのためにも、交歓会の継続に係る予算確保が必要となる。</p>	A	

令和2年度（令和元年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価シート

《学校教育》 夢と自信をもち 魅力あふれる 宍粟の明日を担う人づくり

基本目標 2 地域総がかりで「新しい学校」を創造する

※評価指標  
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる  
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	主な取組内容（事務事業）と実績	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員評価
(1) 地域との協働による学校づくり	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇地域との協働によるコミュニティ・スクールの推進等による、地域とともにある学校づくり</li> <li>◇コミュニティ・スクールの推進</li> <li>◇小中一貫教育の推進</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇3校区（千種中学校区、波賀中学校区、一宮北中学校区）においてコミュニティ・スクールの推進</li> <li>◇一宮北中学校区では、小中学校でひとつの運営協議会を設置（H31より）</li> <li>◇一宮北中学校区において、一宮北小中学校小中一貫教育推進常任委員会（準備委員会）を開催</li> </ul> <p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇地域性を活かした特色ある教育の推進による、魅力ある学習活動の展開</li> <li>◇地域人材を活用したふるさと学習</li> <li>◇地域行事への参加</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学校におけるゲストティーチャー招聘率100%</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇読書ボランティアや登下校見守り隊、学校農園での米作りや交流しめ縄づくりなどのさまざまな行事や取組により、地域人材との交流や地域人材からの支援による学校づくりを進めることができています。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇平成29年4月1日の法改正（「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」）により、すべての小中学校をコミュニティ・スクールにすることが努力義務となった。令和9年度には全中学校区において、併設型小・中学校による小中一貫教育を実施する予定であるが、その前に全中学校区でのコミュニティ・スクールの取組を進め、地域・家庭・学校が一体となり連携や協働による教育活動を推進していく必要がある。</li> <li>◇コミュニティ・スクールについては、予算措置や人的配置などの支援を国や県の施策を活用しつつ包括的に推進していきたい。そして、令和8年度までに全中学校区（7校区）においてコミュニティ・スクールの実施したい。</li> </ul> <p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇地域人材をゲストティーチャーとして学校に招き、「ふるさと学習」など地域について学ぶ学習を推進したり、地域の企業から専門的な知識を持った人材を招き学ぶ機会をつくることは、児童生徒の意欲的な学習につながっている。</li> <li>◇地域や地域企業との連携を密にして、地域人材によるゲストティーチャーを確保していく必要がある。</li> </ul> <p>【参考】【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学校におけるゲストティーチャー招聘率100%</li> </ul>	B-	B-
(2) 宍粟の特性を踏まえた教育環境整備 <b>【評価重点項目】</b>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学校規模適正化推進計画に基づく学校規模の適正化の推進</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①令和元年4月1日時点の小学校数12校</li> <li>※城下小・戸原小学校区</li> <li>※当分の間繰り延べ</li> <li>※伊水小・都多小学校区</li> <li>令和2年度より協議再開</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成21年8月に策定した「宍粟市学校規模適正化推進計画」の推進期間（10年）が平成30年度末で満了となり、令和元年度以降も本計画において2校区の適正化を推進することとしている。伊水・都多小学校区においては、地区自治会長と令和2年度からのスムーズな協議再開に向けて調整を行った。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伊水小・都多小学校区においては令和2年度から協議を再開することになってきている。協議当時から子どもの数も大きく変わっていることから、現状について、地域や保護者の意見や思いを聞く中で取組を進めていく必要がある。</li> </ul>	B+	B+
	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ICT活用授業改善事業（小中学校-特別教室）</li> <li>②児童用タブレット購入事業（小学校）</li> <li>③学校園空調設備整備事業</li> <li>④学校施設トイレ改修事業</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①市内小学校の特別教室（理科室）にタブレットと大型モニター（各1台）計12台を導入</li> <li>②教育振興指定寄附金により、小学校6校にタブレットパソコン163台を導入</li> <li>③小中学校の普通・特支学級教室と特別教室の一部、幼稚園の保育室に空調設備を設置（H30明許）</li> <li>④神野小学校屋内運動場、山崎西中学校管理・教室棟、山崎東中学校特別教室棟のトイレを乾式化・洋式化</li> </ul> <p>【参考】【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇市内中学校の特別教室（理科室）にタブレットと大型モニター（各1台）計7セットを導入</li> <li>◇小中学校の普通・特支学級教室と特別教室の一部、幼稚園の保育室に空調設備を設置（H30明許）</li> <li>◇千種小学校屋内運動場の屋根を改修</li> <li>◇山崎西中学校特別教室棟、山崎東中学校屋内運動場のトイレを乾式化・洋式化</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①児童生徒が積極的に学習に取り組めるようになった。</li> <li>②ICT教育のさらなる先駆けとなった。</li> <li>③猛暑に対して安全で快適な学習環境を確保できた。</li> <li>④児童生徒の良好な教育環境の形成を図ることができた。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①タブレットや大型モニターの寿命を見据えた計画的な機器の更新</li> <li>②GIGAスクール構想に基づき児童生徒1人1台端末の整備推進</li> <li>③節電も含めた適正な運用管理</li> <li>④令和4年度までの計画的な整備推進</li> </ul>	B+	B+

【意見等】  
学校規模適正化については、計画上2つの地区での取組が残っているが、すでに適正化を行った学校でも、今後、児童数が大幅に減少していくことが予想される。このことについて課題として考えられることはあるか。

【回答】  
児童数については、計画策定時の平成21年度2,584人で、以降急激に減少し、今年度10月時点では1,798人で30%の減少、また令和8年度には1,343人、48%の減少が見込まれている。すでに適正化を行った、千種小、山崎西小、波賀小、一宮北小、はりま一宮小学校においても、開校時と令和8年度の児童数を比較すると、ほとんどが半数以下となった見込みである。また中学校においても、平成17年の合併時に1,468人であった生徒数が、今年度は968人で34%減少している。学校規模適正化の推進にあたってのアンケータでは、小学校1校あたりの児童数は150人程度が望ましいとされており、現状においては十分な集団規模を確保できないところも出てきている。しかしながら、小中一貫教育を推進する中で、令和元年に策定した整備方針において、児童生徒数の現状と今後の減少の見込みもふまえた上で制度設計を行っているため大きな課題はないと考えている。

【意見等】  
タブレットについては昨年度整備された部分での活用状況、また1人1台タブレットの整備が進められる中で、これからのようなロードマップをもって進められるか。

【回答】  
タブレット整備については、これまでコンピュータ教室に設置していたパソコンの老朽化に伴い行っている。タブレットは教室に持ち込んで使用できるようにしている。コロナ禍における活用のところについては、大幅な設定変更が必要となることから、自主的学習等への活用に至っていない。文部科学省が示す1人1台タブレットについては、今年度整備を行っているところであり、当初計画では、小学校5・6年生、中学校1年生の部分について整備を行うこととしていたが、その後、国の補正予算により、残る学年の部分についても整備を行うこととしている。

令和2年度（令和元年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務局事業評価シート

《学校教育》 夢と自信をもち 魅力あふれる 宍粟の明日を担う人づくり

基本目標 3 宍粟の未来を支える多様な力を育てる

※評価指標  
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる  
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	主な取組内容（事務事業）と実績	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員評価
(1)時代を牽引する個性豊かな人材の育成	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇話し合い学習の充実を図り、主体的に判断したり新たな価値を創造したりする力の育成</li> <li>◇しそく学力向上検討委員会</li> <li>◇しそく学力向上プログラム（学力向上プラン）</li> <li>◇ICT機器の活用</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学力向上検討委員会を年間4回開催</li> <li>◇全小中学校への学校訪問を実施</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学力向上検討委員会を年間4回開催</li> <li>◇全小中学校への学校訪問を実施</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学力向上検討委員会において平成30年度からの課題として「話し合い学習活動」について、研究授業等により研究を進めることができた。</li> <li>◇タブレットや大型モニタ等のICT機器を活用し、話し合い活動の充実を図ることができた。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「話し合い学習活動」の取組を進めているが、主体的に判断したり、さまざまな周囲の意見により自らの考えを深化させていくまでに至っていないことが多く、授業実践等による研究を進めていく必要がある。</li> </ul>	B+	B+
(2)グローバル人材の育成	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇積極的にALT（外国語指導助手）を活用した、小学校における英語教育の充実</li> <li>◇しそく生き生き英語プログラム事業</li> <li>◇小・中がつながる教育課程・授業づくり事業</li> <li>◇しそく生き生き英語授業づくり</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「出合い・ふれあい・こども教室」7校（全中学校）</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「出合い・ふれあい・こども教室」7校（全中学校）</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇乳幼児の数が減少している中、関係機関の協力により、交流活動が実施できているが、今後実施するにあたり、人数確保のための関係機関の負担は大きくなることが予想される。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇乳幼児の数が減少している中、関係機関の協力により、交流活動が実施できているが、今後実施するにあたり、人数確保のための関係機関の負担は大きくなることが予想される。</li> </ul>	A	A
【評価重点項目】	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇積極的にALT（外国語指導助手）を活用した、小学校における英語教育の充実</li> <li>◇しそく生き生き英語プログラム事業</li> <li>◇小・中がつながる教育課程・授業づくり事業</li> <li>◇しそく生き生き英語授業づくり</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇全ての中学校区における公開授業と取組状況報告を行う研究協議会の実施（7中学校区、15校で実施）</li> <li>◇外国語指導助手（ALT）の活用率の向上（外国語の総授業時数に対する活用割合） <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校41%以上の学校は58.3%</li> <li>・中学校41%以上の学校は85.7%</li> </ul> </li> </ul> <p>※令和2年7月段階で文科省数値は公開前。</p>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇市内小学校教員及び中学校外国語教員の授業づくり、授業改善をサポートし、実践的な研修を実施し、指導力の向上に向けた取組を行うことができた。新学習指導要領を踏まえた小学校外国語活動及び小学校外国語の教育課程の作成に向けた、小学校と中学校の系統だった教育課程編成のための研究も進めることができた。全ての中学校区で研修を行うことができた。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇市内小学校教員及び中学校外国語教員の授業づくり、授業改善をサポートしながら、小学校・中学校を通じた英語教育の強化と小中連携した外国語の教育課程編成を行う必要がある。</li> </ul>	B+	B+
	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇体験を通して学ぶ国際理解教育・多文化共生教育の推進</li> <li>◇国際理解教育・多文化共生教育事業</li> <li>◇スクワイム市派遣国際交流</li> <li>◇英語スピーチコンテスト</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇スクワイム市派遣国際交流 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクワイム市への派遣人数 10名</li> <li>・スクワイム市からの訪問人数 10名</li> </ul> </li> <li>◇英語スピーチコンテスト 1回開催（スクワイム市からの派遣生徒参加）</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇スクワイム市派遣国際交流 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクワイム市への派遣人数 10名</li> <li>・スクワイム市からの訪問人数 10名</li> </ul> </li> <li>◇英語スピーチコンテスト 1回開催（スクワイム市からの派遣生徒参加）</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇スクワイム市派遣国際交流 <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクワイム市への派遣人数 10名</li> <li>・スクワイム市からの訪問人数 10名</li> </ul> </li> <li>◇英語スピーチコンテスト 1回開催（スクワイム市からの派遣生徒参加）</li> </ul>	B+	B+

令和2年度（令和元年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務事業評価シート

《学校教育》 夢と自信をもち 魅力あふれる 宍粟の明日を担う人づくり

実践目標	主な取組内容（事務事業）と実績	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の主な意見・感想とそれに対する説明	委員評価
<p>(3)幼稚園・保育所・こども園・小学校・中学校の連携・協働</p>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇幼稚園・保育所・こども園と小学校・中学校間の、子どもの成長を着実に引き継ぐ取組の推進</li> <li>◇学校園所パートナーシップ事業</li> <li>◇小中一貫教育</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「学校園所」パートナーシップ推進協議会を各中学校区で設置100%</li> <li>◇小中交流授業の実施100%</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「学校園所」パートナーシップ推進協議会を各中学校区で設置100%</li> <li>◇小中交流授業の実施100%</li> </ul> <p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇小・中・高等学校連携研修会in宍粟（開催場所：はりま一宮小学校）</li> </ul> <p>情報教育、国際化に対応した教育、スクーローロイヤー、人権教育、特別支援教育通級指導って何、教職員との指導体制 不登校・虐待への対応、いじめ重大事態への対応等、7つの分科会に分かれて討議</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者 213名</li> <li>・宍粟市の全小中学校（19校）</li> <li>・播磨西地区の県立高校（18校）</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内全小中学校19校の参加</li> <li>市内県立高校3校及び播磨西地区の14校が参加して同様の研修会を行った。</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇令和元年3月に宍粟市内全学校園所代表によるパートナーシップ合同会議を開催し、各中学校区の取組についての交流を行うことができた。</li> <li>◇各中学校区において、パートナーシップ交流事業への意識の高まりが見られる。</li> <li>◇私立保育園等と小中学校との交流も充実してきており、今後も情報交流と改善のための協議を活発にし、当事業を強力に推進していきたい。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇中学校区での取組に差があるので、パートナーシップ合同会議での意見や取組の情報交流により、改善していきたい。</li> <li>◇私立保育園等と小中学校との交流も充実してきているので、今後も情報交流と改善のための協議を活発にし、当事業を強力に推進していきたい。</li> </ul> <p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7講座実施したことにより、県や市の重要施策、現代的な教育課題を網羅する幅広い研修会となった。</li> <li>複数の講座から、教員が自分の専門性・実践力の向上につながる講座を選択し受講することで、社会の変化に対応した最新の知識を習得することができた。</li> <li>18校に及ぶ県立高等学校からの参加があったため、市内の小中学校教員がが全県的な県立高等学校の取組について触れることができた。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎年生じる新たな教育課題に対応した、最新の知識が取得可能な研修会を実施するために、専門性を有する研修講師が必要であるが、その確保が容易ではない。</li> <li>夏季休業期間中には県教育委員会主催も含めて多くの研修会が行われる。そのため、学校を離れて研修に参加する教員の負担が大き。</li> </ul>	<p>B+</p>	<p>委員の主な意見・感想とそれに対する説明</p>	<p>B+</p>
		<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7講座実施したことにより、県や市の重要施策、現代的な教育課題を網羅する幅広い研修会となった。</li> <li>複数の講座から、教員が自分の専門性・実践力の向上につながる講座を選択し受講することで、社会の変化に対応した最新の知識を習得することができた。</li> <li>18校に及ぶ県立高等学校からの参加があったため、市内の小中学校教員がが全県的な県立高等学校の取組について触れることができた。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎年生じる新たな教育課題に対応した、最新の知識が取得可能な研修会を実施するために、専門性を有する研修講師が必要であるが、その確保が容易ではない。</li> <li>夏季休業期間中には県教育委員会主催も含めて多くの研修会が行われる。そのため、学校を離れて研修に参加する教員の負担が大き。</li> </ul>	<p>B+</p>	<p>【意見等】 宍粟市の独自事業として、小・中・高が連携する中で、教員の専門性や実践力の向上に積極的に取り組んでいるといえる。</p>	<p>A</p>

令和2年度（令和元年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務局事業評価シート

《学校教育》 夢と自信をもち 魅力あふれる 宍粟の明日を担う人づくり

基本目標 4 生涯学び続け、活躍できる力を育てる

※評価指標  
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる  
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	主な取組内容（事務事業）と実績	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員評価
<p>(1) 学び続けようとする子どもの育成</p>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇地域の読書ボランティアの協力を得た、生涯学習につながる読書活動の充実</li> <li>◇各小中学校での読書ボランティアの活動</li> <li>◇読書ボランティア連絡会の実施</li> <li>◇読書ボランティア応援誌「本の小部屋通信」の発行</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇読書ボランティア活動実績 登録者数 193名 総活動日数 305日 総活動人数 1,447名</li> <li>◇読書ボランティア連絡会 3回開催 34名参加 ◇応援誌 3回発行</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇読書ボランティア活動実績 登録者数 203名 総活動日数 356日 総活動人数 1,757名</li> <li>◇読書ボランティア連絡会 3回開催 30名参加 ◇応援誌 3回発行</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇小学校での読書ボランティアによる読み聞かせが定着、図書室の掲示等の環境整備も熱心に行われている。学校図書（学校教育課）が全小中学校の図書整理を行ったため、読書ボランティアの作業が軽減され活動日数が減少した。</li> <li>◇連絡会と同内容を学校単位で行う「座談会」を4校（6回）開催。</li> <li>◇連絡会の内容を応援誌に掲載し、読書ボランティア全員に配布。日々の活動での問題の解決や選書に役立っている。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇読書ボランティアの人数は概ね足りているが、高齢化等で引退する方もいるので、新メンバーを募集する必要がある。</li> <li>◇連絡会では熱心に意見交換がされているが、参加者が固定化している。座談会も開催校が決まっていますので、新規開催を進めたい。</li> <li>◇継続して応援誌を発行し、より読書ボランティアの問題解決に役立てるよう誌面の工夫を図る。</li> </ul>	B+	B+
<p>【評価重点項目】</p>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇インターネットにおける望ましい情報活用能力や、モラルを育成する実践的な情報教育の推進</li> <li>◇情報モラル講演会</li> <li>◇情報教育研修会</li> <li>◇インターネットやSNSの利用状況等に関するアンケート調査</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇情報モラル・情報リテラシーに関する講演会を小中学校で100%実施</li> <li>◇「インターネットやSNSの利用状況等に関するアンケート調査」の実施と分析</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇情報モラル・情報リテラシーに関する講演会を小中学校で100%実施</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇市内小中学生によるラインやオンラインゲーム等SNS上のトラブルは増加してきており、情報リテラシー教育は、今後より一層推進していくことが求められている。令和元年度に情報モラル・リテラシーに関するアンケートを実施し、所持率や活用状況等について調査することができた。</li> <li>◇アンケート調査を児童生徒だけでなく保護者にも実施することで、家庭でのSNS環境等について調査をすることができた。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇宍粟市中学生生徒会によるSNS使用のルール「SNS利用上のルール7か条」の児童生徒への意識付けを繰り返し行う必要がある。</li> <li>◇アンケート調査の結果を分析し、情報モラルや情報リテラシー教育の資料として活用を進める。</li> </ul>	B+	B+
<p>(3) 豊かなくらしを支える人権教育の推進</p>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇市立図書館や学遊館、歴史資料館の活用など、社会教育施設と連携した教育環境整備を推進</li> <li>◇市立図書館及び各町図書室との連携</li> <li>◇その他の社会教育施設との連携</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇図書館との連携 移動図書館による貸出…9校 ブックトーク等の実施…6校 施設見学…6校 資料の特別貸出…8校 トライヤやる・ウィークの受入…2校</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇図書館との連携 移動図書館による貸出…9校 ブックトーク等の実施…7校 施設見学…8校 資料の特別貸出…6校 トライヤやる・ウィークの受入…2校</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇小学校でのブックトークやストーリーテリングの実施で児童の読書意欲を引き出し、移動図書館での貸出しに繋がった。施設見学で来館した際にもストーリーテリングや絵本の読み聞かせを行い、物語を楽しむ機会の増加に努めている。</li> <li>◇学遊館では「しそく森林探検隊」での木工教室や遠足の受入、歴史資料館ではボランティア作りや勾玉作りの指導を行った。また千種中学校では、たらの里学習館の協力で「たたら製鉄学習」を行っている。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ブックトークやストーリーテリング等、読書の楽しみを伝える活動を継続して実施する。子どもの自主的な学びをサポートできるよう、資料の充実や提供に努める。</li> <li>◇宍粟市の特色を活かしたさまざまな体験ができるよう、社会教育施設と連携して連携を図る。</li> </ul>	B+	B+
	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇幼稚園、保育所、こども園、小学校、中学校の全教職員を対象に人権教育講演会を行った。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇関西国際大学 百瀬和夫教授を招き8月7日に「特別支援教育の知見をいかした指導・支援～英訳の力で教育が変わる～」と題して講演会を行った。</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇関西国際大学 新井肇教授を招聘し講演会（いじめ問題）を開催した。（対象：市内幼稚園、保育所、こども園、小学校、中学校の全教職員）</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇発達障害についての理解を深め、全ての学校園所において、ユニバーサルな授業づくりや多様性を尊重した学級づくり等を行うとともに、全ての教職員が学習指導要領等に示された学びの困難さに対応した指導ができるよう、発達障害等に関する基礎的な知識・技能の習得と指導力の向上を図ることができた。</li> <li>◇参加者の満足度も高く、内容は現場の困り感を取り上げた内容だったため講演内容に対する肯定感は95%を超えていた。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学校が抱える問題や困り感を踏まえ、その解決につながる講演会・研修会を構築するために、講師との綿密な事前打合せを行う必要がある。</li> <li>◇今回の研修では、現場のニーズを捉えた講演会を実施することができたが、今後も、教員一人一人が自身を振り返るとともに、自らの職責やキャリアアップに際して高度な専門的知識・技能の習得につながる講演会・研修会を引き続き運営する必要がある。</li> </ul>	A	A

令和2年度（令和元年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務局事業評価シート

《学校教育》 夢と自信をもち 魅力あふれる 宍粟の明日を担う人づくり

基本目標 5 充実した学びを支えるセーフティネットを創りあげる

※評価指標  
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる  
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	主な取組内容（事務事業）と実績	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員評価
<p>(1) 基礎的な知識・技能の習得を支援する教育環境の整備</p> <p><b>【評価重点項目】</b></p>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇タブレット、大型モニタなどのICT機器の整備・有効活用による、わかりやすい授業づくり</li> <li>◇ICTプロジェクト会議</li> <li>◇情報教育研修会</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇小中学校のタブレット・大型モニタ整備率 100%</li> <li>◇ICTプロジェクト会議の開催 5回</li> <li>◇研修所事業として情報教育研修会（プログラムミニング教育）の実施 3回</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇小中学校のタブレット・大型モニタ整備率 100%</li> <li>◇ICTプロジェクト会議開催</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇令和2年度から小学校でスタートするプログラミング教育について、情報教育研修会を開催することができた。</li> <li>◇ICT機器の授業での活用やパソコン教室の整備等について、ICTプロジェクト会議において協議を進めることができた。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ICT機器の整備により、すべての教職員がタブレットや大型モニタを活用した授業を行うことが可能になった。ICT機器の活用により、聴覚だけではなく視覚に訴えるなど、児童生徒にとってわかりやすい授業づくりを進める。</li> <li>◇情報教育研修会等で、ICT機器の活用方法についての研修を進めていく必要がある。</li> </ul>	B-	B-
	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇子どももの到達度に合わせたきめ細やかなプリント教材が作成できる学習支援ツールの整備による、学力の向上や定着に向けた取組の推進</li> <li>◇学習支援ツール</li> <li>◇放課後がまんばりタイム</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学習支援ツールの中学校での活用率 100%（中学校のみ実施）</li> <li>◇放課後がまんばりタイムの実施率100%（全小学校で実施）</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学習支援ツールの小中学校での活用率 100%</li> <li>◇放課後がまんばりタイムの実施率66.7%（8/12小学校）</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学習支援ツールについて、全7中学校において学習プリントの活用だけではなく、家庭での自主的な学習にも対応したインターネット上の学習支援ツールを活用した学習支援を実施することができた。</li> <li>◇放課後がまんばりタイムについて、市内全12小学校において実施し、学習習慣の定着や基礎基本の定着をめざす取組を進めた。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇中学校だけではなく小学校においても、家庭でのWeb上の学習を支援ツールを活用した学習支援の充実を図りたい。</li> <li>◇学習支援ツールの家庭での使用のために、ネット環境整備等の家庭への支援（補助事業）を進める必要がある。</li> </ul>	B+	B+
<p>(2) 豊かで実り多い学校生活の基盤をつくる生徒指導の推進</p>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇社会的スキルを育てる集団づくり</li> <li>◇山崎西中学校で神戸松蔭女子学院大学から根津隆男教授を講師として研修会を開催</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇8月に研修会を1回（1年生対象）</li> <li>◇10月に授業研究会を1回（2年生対象）</li> <li>◇2月に授業研究会を1回（2年生対象）</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇山崎南中学校で研修会を3回実施</li> <li>◇2回は研修会</li> <li>◇1回は授業研究会</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇新しく山崎西中学校で社会的スキルを育てる集団づくり事業を始めた。</li> <li>◇研修会は先生の指導の効果で新しい気づきがたくさんあった。</li> <li>◇授業研究会では公開授業のあったクラスの実践は意欲的に取り組んでいた。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇山崎西中学校は取り組み始めたばかりで、まだスキルが定着しているといえない状態である。</li> <li>◇継続して同じ学校で取り組む必要がある。</li> </ul>	B+	B+
	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇スクールカウンセラーや学校サポートチームの支援</li> <li>◇スクールカウンセラー</li> <li>◇スクールソーシャルワーカー</li> <li>◇しそろ学校サポートチーム</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇スクールカウンセラーの全小中学校への配置（週1回～2回）</li> <li>◇「しそろ学校サポートチーム」巡回相談訪問114回、ケース検討会38回、研修会、会議への参加10回、面接相談38回、延べ200日</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇スクールカウンセラーの全小中学校への配置（週1回～2回）</li> <li>◇「しそろ学校サポートチーム」巡回相談訪問76回、ケース検討会7回、研修会、会議への参加36回、面接相談31回、延べ150日</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇市内全小中学校への巡回訪問により各学校のいじめや不登校等の事案に対する対応、保護者からの相談への対応などにより、子ども・保護者への支援を行うことができた。</li> <li>◇学校からの不登校等の相談をしそろ学校サポートチームが受けることで、様々な専門性を持つメンバーが、色々なケースに対応した助言や支援を行うことができた。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇教職員の生徒指導体制の充実に向け、しそろ学校サポートチームによるケース会議等による研修会を実施し、各校の対応力の充実に向けた取組を行う必要がある。</li> </ul>	B+	B+

令和2年度（令和元年度事業対象） 宍粟市教育委員会事務局事業評価シート

《学校教育》 夢と自信をもち 魅力あふれる 宍粟の明日を担う人づくり

実践目標	主な取組内容（事務事業）と実績	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員評価
<p>(3)地域と連携した防災教育・安全教育の推進</p>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇登下校見守り隊活動の充実や、子ども110番の家の確保により、地域で子どもの安全を守る体制の整備や充実を図る</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇子ども110番の家の登録数563件</li> <li>◇小学校の通学路安全点検実施率100%</li> <li>◇登下校の見守り活動（保護者、地区の人々またはボランティア等）が行われている小学校数12校（全小学校）</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇子ども110番の家の登録数563件</li> <li>◇小学校の通学路安全点検実施率100%</li> <li>◇登下校の見守り活動（保護者、地区の人々またはボランティア等）が行われている小学校数12校（全小学校）</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇子どもの数が減少している中、子ども110番の家や見守り隊活動も変わらず維持でき、地域で子どもの安全を守る体制が、各学校で学校たより等で発信され継続できている。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇子どもの数が減少する中、少人数で広範囲を登下校するケースの増加が見られるため、子どもの安全を守るため、「見守り活動」のしくみを再検討する必要がある。見守り隊の新規登録者を募るなど、見守り体制の充実を図る必要がある。</li> </ul>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>(4)関係機関・地域と連携した子育て支援の充実 【評価重点項目】</p>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇関係機関や地域と連携し、体験的な防災・安全教育の推進</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学校危機管理マニュアルの見直し：毎年度1回実施</li> <li>◇地域（自治体・PTA）や専門機関（消防署等）と連携した防災（避難）訓練の実施率小学校100%・中学校86%</li> <li>◇地域（自治体・PTA）や専門機関（消防署等）と連携した防災教育に関する活動（授業・防災講話等）の実施率小学校42%・中学校57%</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学校危機管理マニュアルの見直し：毎年度1回実施</li> <li>◇地域（自治体・PTA）や専門機関（消防署等）と連携した防災（避難）訓練の実施率小学校100%・中学校100%</li> <li>◇地域（自治体・PTA）や専門機関（消防署等）と連携した防災教育に関する活動（授業・防災講話等）の実施率小学校75%・中学校86%</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「宍粟市学校危機管理マニュアル」の整備について完了しているが、毎年度最新の情報に反映できるよう見直しを図っている。周知徹底を図るとともに、最新の情報を反映し、改訂作業を実施している。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「宍粟市学校危機管理マニュアル」について、今後も周知徹底を図るとともに、適切に活かされるよう今後も最新の情報を反映し、改訂作業を実施していくことが必要である。</li> <li>◇地域（自治体・PTA）や専門機関（消防署等）と連携した防災教育に関する活動は、防災（避難）訓練と同様に重要課題であり、年間計画に組み入れ、計画的に準備・推進できることが必要である。</li> </ul>	<p>B-</p>	<p>B-</p>
	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇健康福祉部・県立こども家庭センター・警察などと連携した子育て支援の推進</li> <li>◇宍粟市要保護児童対策地域協議会</li> <li>◇健康福祉部や警察と連携したケース検討会</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇健康福祉部・県立こども家庭センター・警察などと連携した子育て支援の推進</li> <li>◇健康福祉部や警察と連携したケース検討会の実施数 9 ケース</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇健康福祉部・県立こども家庭センター・警察などと連携した子育て支援の推進</li> <li>◇健康福祉部や警察と連携したケース検討会の実施数 7 ケース</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇虐待への対応など、健康福祉部・県立こども家庭センター、警察と連携しながら、児童生徒の保護へとつなげることができた。また、保護者や学校への支援についても、ケース検討会等の実施により丁寧な対応ができていく。</li> </ul> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学校が児童生徒の様子から気になることがある段階で、教育委員会や健康福祉部に情報提供をするなど、虐待に対してより丁寧な対応を必要とする。</li> </ul>	<p>B+</p>	<p>B+</p>

令和2年度（令和元年度事業対象） 粟粟市教育委員会事務事業評価シート

《学校教育》 夢と自信をもち 魅力あふれる 粟粟の明日を担う人づくり

基本目標 6 新しい時代の教育に対応するための基盤を整備する

※評価指標  
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる  
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	主な取組内容（事務事業）と実績	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員評価
<p>(1)時代のニーズに対応した教職員研修の実施</p> <p><b>【評価重点項目】</b></p>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <p>◇ライフステージ別研修会の実施（夏季休業中に実施）</p> <p>【実績】</p> <p>◇小中学校長研修会 17名</p> <p>◇小中教頭及び主任幹教諭研修会 47名</p> <p>◇小中教職員40歳未満研修会 129名</p> <p>◇小中教職員40歳以上研修会 86名</p> <p>◇幼保こども園の園所長研修会 17名</p> <p>※参考【H30実績】</p> <p>5 講座の開講（令和元年度と同様）</p>	<p>【取組の成果】</p> <p>◇それぞれの研修会、講演会の内容についての満足度は研修会、講演会の種類によって少しずつ違いますが、教職員が抱える問題や日々の困り感に対応し、その解決につながる講座を設定することができた。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>◇夏季休業中は特にさまざまな研修が集中して実施されるため、全員が参加できるような大規模の研修会を実施することが難しい。</p> <p>◇各ライフステージ（年齢）に応じた教育課題の解決につながる研修会を設定するためには、教職員の抱える課題を的確に把握する必要がある。</p>	B+	B+
	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <p>◇大学と連携した講座 教科別研修、教科外研修、職種別研修、課題研修、学校園指定研修と研修会を持つことが大学の教員を呼び、最新の知識に触れる機会を持つ。</p> <p>【実績】</p> <p>◇大学と連携した研修会 15講座（全21講座中）</p> <p>※参考【H30実績】</p> <p>◇大学と連携した講座 14講座（全18講座中）</p>	<p>【取組の成果】</p> <p>◇兵庫教育大学をはじめ阪神間にある大学の先生を招聘し、研修会を行った。</p> <p>幅広い知識と高度な専門性を有した講師による研修会により、教員一人一人は自身を振り返るとともに、自らの職責やキャリアステージに応じて、計画性をも自主的・主体的に研修に取り組み、様々な課題への対応能力向上につながることができた。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>◇学校現場が抱える課題と、研修会のテーマ・指導助言がなる必要がある。そのためにも研修会講師との事前打合せは重要である。事務局として今後も、教職員が自主的・主体的に取り組む、さまざまな課題への対応能力の向上につながる研修会を企画する。</p>	B+	B+
	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <p>◇教育講演会「子どもたちに身に付けさせたい力で考えるキャリア教育の推進」講師 足立区教育委員会 指導主事 佐藤学（新しい教育課題「キャリア教育」について幼稚園、保育所、こども園、小中学校の全教職員を対象に開催）</p> <p>【実績】</p> <p>◇参加者数 356名</p> <p>※参考【H30実績】</p> <p>◇兵庫教育大学 小西哲也教授「しそうの子ども生き生きプラン」講演会実施</p>	<p>【取組の成果】</p> <p>◇「キャリア教育を通じて子どもたちに身に付けさせたい力」についての講演会であったが、参加・体験型の講演であったため、教職員が自主的・主体的に研修に取り組むことができ、子どもたちの「自立」に向け、自己認識や自尊感情を高め、人間としての在り方や生き方を考えるきっかけとなった。</p> <p>◇キャリア教育を学校の教育活動全体で推進し、キャリア教育の視点を各学校の教育課程に適切に位置づけ、体系的・系統的に展開することの大切さを学ぶことができた。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>◇児童生徒、地域、学校の実態から目標や身に付けさせたい力を明確にすることができたことで、今後は焦点化した課題を日々の教育活動に設定することによる効果的な取組につながる必要がある。</p> <p>◇各体験活動や体験活動につながる事前・事後の学習をどのようなねらいで指導していくのかについて、学校全体で共通理解することが必要である。</p>	A	A

令和2年度（令和元年度事業対象） 栗市教育委員会事務局事業評価シート

《社会教育》 つなぐ心 つなぐ地域 つなぐ知恵 共に学び 共に支えあう 栗市の生涯学習

基本目標 1 生きがいをもって学べる生涯学習の推進

※評価指標  
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる  
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	主な取組内容（事務事業）と実績	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の主な意見・感想とそれに対する説明	委員評価
(1) だれもが参加できる生涯学習の推進	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇年齢や学習目的に応じた「学び」のきっかけづくり</li> <li>・高齢者大学・生涯学習講座の実施</li> <li>・しそく青い鳥・くすの木学級の推進</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇高齢者大学生数 879人</li> <li>◇青い鳥・くすの木学級 学級生参加人数 延べ82人</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇高齢者大学生数 856人</li> <li>◇青い鳥・くすの木学級 学級生参加人数 延べ74人</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <p>高齢世代が心豊かな暮らしを送るために必要な情報・知識の提供を行うと共に、学生同士がクラブ活動などを通して仲間づくりの場となるようなキャンパス運営を行った。</p> <p>また、視覚および聴覚あるいは言語に障がいのある人を対象に、日常生活で必要となる知識や情報の提供のほか、支援スタッフの協力のもと学級生同士の交流を促進するさまざまな講座を実施し障がいの有無に関わらず共に生きる社会づくりに向けた事業を実施した。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>青い鳥・くすの木学級の学級生が固定化し広がりが少ない。また、青い鳥学級のボランティアの高齢化、減少化により運営が困難になってきている。</p>	B+		B+
(2) 学んだことが地域で活かせる事業の推進	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇生涯学習センターの登録団体など、「学び」を続けるグループの活動を支援</li> <li>◇地域での学習のリーダーとなる人材の育成</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇市民大学生（しそく学びバスポート所持者） 229人</li> <li>◇市民大学講座数 35講座</li> <li>◇生涯学習センター登録団体数 60団体</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇市民大学生（しそく学びバスポート所持者） 230人</li> <li>◇市民大学講座数 45講座</li> <li>◇生涯学習センター登録団体数 60団体</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <p>活動の成果を自らの満足に終えることなく、市民全体で共有すること（学びの還元）について働きかけを行い、行政が行う青少年育成事業の講師として活躍していただくなど、共に学び磨きあう生涯学習の趣旨に沿った取組を進めた。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>登録団体構成メンバーの高齢化が進む中で新たな担い手が不足しており、持続可能な団体活動に向けて、必要な助言・指導を行っていく必要がある。</p> <p>バスポート所持者は、世代間での偏り（若年層が少ない）が顕著に見られる。あらゆる世代の興味・関心に沿って選択できるようジャンルと内容に幅を持たせ魅力ある市民大学として、引き続き広報・募集活動にも積極的に取り組む。</p>	B+	<p>【意見等】</p> <p>高齢化により登録団体の維持というところが課題になってくるところがあると思うがそのあたりの取組についてはどう考えているか。</p> <p>【回答】</p> <p>登録団体数は横ばいの状況となっているが、グループによっては人数が少なくなるところもある。このため、次の世代に繋げる取組が必要であると考えている。子ども教室などで登録団体に関わっていただくなど世代間交流を推進していきたい。</p>	B+
(3) 学んだことがみんなに広がる取組の推進	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学びの成果を発表し、相互に交流する機会の提供</li> <li>◇ホームページなどを活用した生涯学習情報の収集と発信</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇夏休み親子体験教室（竹細工・木工）開催数 各1回</li> <li>◇各所館のホームページで講座の予定や実施状況を掲載</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇夏休み親子体験教室（竹細工・木工）開催数 各1回</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <p>家原遺跡公園工房を活用して、交流と体験の2つの目的を併せ持つ事業として夏休み親子体験教室を実施した。</p> <p>各所館ごとに開催している作品展への出展や、各高齢者大学の発表会などで学びの成果を発表し交流することができた。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>夏休み期間中においては、さまざまな子ども向け体験活動が集中して実施されることから、参加申込者が少ない現状である。</p> <p>開催時期や体験内容について改善を図り、情報発信を広く募集するなど工夫していく必要がある。</p>	B-		B-
(4) みんなが利用しやすい生涯学習施設の整備と充実 【評価重点項目】	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇生涯学習施設の快適な利用と安全管理のための施設修繕</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇生涯学習施設の修繕費（年間） 960千円</li> <li>・学遊館 1,204千円</li> <li>・センターいちのみや 108千円</li> <li>・センター波賀 876千円</li> <li>・センターちくさ 217千円</li> <li>＜合計＞1,980千円</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇生涯学習施設の修繕費（年間） 1,204千円</li> <li>・学遊館 1,204千円</li> <li>・センターいちのみや 108千円</li> <li>・センター波賀 876千円</li> <li>・センターちくさ 217千円</li> <li>＜合計＞2,405千円</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <p>一宮・波賀・千種の生涯学習事務所については、令和2年度から順次、（仮称）市民協働センター施設へ統合し生涯学習の拠点施設として市民の利便性、安全性の向上を図ることとしている。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>学遊館については、現行を維持し必要に応じ修繕対応を継続していく。</p> <p>センターいちのみやについては、令和2年度解体予定。センターちくさについては、（仮称）千種市民協働センター供用開始後の令和4年度以降解体予定。市民センター波賀については、（仮称）波賀市民協働センター供用開始後の令和5年度以降解体予定。</p>	B-	<p>【意見等①】</p> <p>一宮、波賀、千種の生涯学習施設については、それぞれ市民協働センターに機能集約される。その点においては、将来的な維持管理費の縮減にはつながるものと考えられる。誰もが利用しやすい生涯学習施設をめざす中で、今年オープンした「いちのすびあ」においては、どのようなところが充実されているか。</p> <p>【回答①】</p> <p>図書室の利便性向上のため、平日は午後7時まで開館時間を拡大している。休館日は月末、祝祭日、年末年始とし、これまでより利用しやすくなっている。また、令和2年度より一宮では機能が集約されたため、子育て世代の方を中心に協働センターを利用されており、その際に図書室も利用していただけたなど利用者も増えている。新たな事業として、オンライン英会話教室を開始している。施設面では、玄関から各部屋まで段差のない完全バリアフリー化をされ、多目的型エントランスホールを開設して、文化サークルの作品展示などに利用いただいている。また、これまでの社会教育施設では利用いただけなかった生業づくりなどの営利目的でも利用できるようになるなど、地域の交流拠点として広く活用していただいている。</p> <p>【意見等②】</p> <p>自己評価「B-」としている理由は、</p> <p>【回答②】</p> <p>予算上のこともあるが、十分な施設の環境整備（修繕等）ができていなかったため。</p>	B-

令和2年度（令和元年度事業対象） 史粟市教育委員会事務局事業評価シート

《社会教育》 つなぐ心 つなぐ地域 つなぐ知恵 共に学び 共に支えあう 史粟の生涯学習

基本目標 2 人権を尊重するまちづくり、子どもや青少年が健やかに育つ地域づくり

※評価指標  
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる  
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	主な取組内容（事務事業）と実績	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の主な意見・感想とそれに対する説明	委員評価
(1) 地域や学校園所、関係機関と連携した人権教育の推進 【評価重点項目】	<p>【取組内容（事務事業）】 各地区の生涯学習推進協議会や自治会において、人権教育をテーマとした研修会や学習会の実施</p> <p>【実績】 生涯学習推進協議会の研修会等活動回数 165回</p> <p>※参考【H30実績】 生涯学習推進協議会の研修会等活動回数 174回</p>	<p>【取組の成果】 研修会や学習会に参加することで人権意識の向上を図るとともに、実践発表会を通じて情報交換や地域住民の交流の場を設けることができた。</p> <p>【今後の課題】 それぞれの地域ごとに工夫をしながら研修会や学習会の機会を創出し、より多くの市民や幅広い年齢層への参加を促していく必要がある。</p>	B+	<p>【意見等①】 自治会単位での人権学習会について、実施率や住民の参加率はどれくらいか。また、毎年度取り組まれている中で目標値の設定はあるか。</p> <p>【回答①】 地域に主体的に取り組んでいただいておりますが、率の把握はできていないが、回数や学習内容については総会などで把握を行っている。市内156自治会のうち令和元年度は100自治会で人権学習に取り組んでいたが、すべての自治会で取り組んでいないことが課題であると考えている。今後も人権意識を高めていく取組をすべての自治会に広げていきたい。</p> <p>【意見等②】 実践目標として、「学校園所との連携」があるが、どのような取組がされているか。</p> <p>【回答②】 一宮、波賀、千種では、学校園所との部会を構成されている。山崎では、生涯学習推進協議会として8支部があり、その中で支部ごとに学校と相談しながら年間の人権教育活動の計画を立てている。</p> <p>【意見等③】 新型コロナウイルスの関係になるが、患者や医療関係者に対する誹謗中傷が問題となっており、人権感覚が問われている。こういった問題で苦しむ人が出てこないよう、人権の取組を進めていただきたいと考える。</p>	B+
(2) 人権を尊重した地域づくりや交流事業の支援	<p>【取組内容（事務事業）】 ◇部落差別から人権を考えるシンポジウム「ありのままの生き方を問う～「恥ずかしい」のはどっちだ～」の開催 ◇若年層にとって親しみやすい啓発手法として、市民公募による人権作品コンテストの実施 ◇動物とのふれあいを通じて「命」の大切さを学ぶ移動動物園の実施</p> <p>【実績】 ◇人権シンポジウム参加人数 82人 ◇S1グランプリ参加人数 185人（応募作品118点） ◇移動動物園参加人数 1,800人</p> <p>※参考【H30実績】 ◇S1グランプリ参加人数 173人（応募作品52点） ◇移動動物園参加人数 1,000人</p>	<p>【取組の成果】 登壇者から実体験をもとに部落差別をはじめ、あらゆる人権問題に対して、自分ごととして考えて欲しいことなど、思いを込めて訴えられた場面もあった。参加者からは「こんなに明るく、ゆかいな人権講演会は初めて。こんな人権教育が広がっていくといいと思う」「同じ人間でありながら、人権の差別は絶対あってはならない。本心に勉強になった」などの意見や感想があり、概ね好評であった。「いのち」をテーマに親しみやすい人権啓発事業を展開することで、人権に関心の低かった若年層の参加を促進するとともに、多くの市民に心の豊かさや多様な考え方を啓発することができた。</p> <p>【今後の課題】 シンポジウム後のアンケートに、「もう少し多くの方に参加していただきたいですね。でも根気よく、このような機会を設けることは必要だと思います。」とあるように、引き続き、わかりやすく学ぶ内容の中にも、楽しさや面白さも取り入れながら、興味・関心を持っていただけるような事業を企画し展開する必要もある。市内外から多数の参加があるが、事業実施の目的をきちんと伝える方法を検討し実施していきたい。</p>	B+		B+
(3) 人権教育の推進と啓発活動の充実	<p>【取組内容（事務事業）】 ◇8月の「人権文化をすすめる市民運動推進月間」や12月の「人権週間」に合わせた、人権啓発にかかわる講演会や映画会等の実施 ◇若年層への人権啓発を目的とした「若者フォーラム」の開催</p> <p>【実績】 ◇市民運動推進月間（週間）事業参加人数 918人 ◇若者フォーラム参加人数 379人</p> <p>※参考【H30実績】 ◇市民運動推進月間（週間）事業参加人数 997人 ◇若者フォーラム参加人数 407人</p>	<p>【取組の成果】 市民一人ひとりの人権が尊重され、差別や偏見がなく、人権が文化として定着したまちをめざし、事業を実施しており、より多くの市民に対し啓発することができた。 若者フォーラムは、会場を防災センターに移し、明るく楽しさの中にもわかりやすく学べる内容を検討したり、子どもへの受入体制を充実したりしたため、小さな子どもや中学生の参加があるなど、若年層の参加率は向上した。</p> <p>【今後の課題】 各事業への参加者の確保に苦慮しているところであるが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の観点からも、1か所に集まって行う従来の講演会方式に加え、オンライン方式での実施等も研究し取組を進める必要があるか考えたい。 若者フォーラムも回目的の開催となったが、未だ実施方法として確立しておらず、充実を担う若者への効果的な人権啓発手法について常に探っていく必要がある。</p>	B+		B+
(4) 地域で子どもを育む体験活動の充実	<p>【取組内容（事務事業）】 ◇地域サポーターと子どもたちが、共に地域の自然や歴史を学ぶ青少年体験活動を実施</p> <p>【実績】 ◇学遊館 チャレンジキャンプ及び土曜なんでも体験隊参加者数 65人 ・地域サポーター（リーダー）53人</p> <p>※参考【H30実績】 ◇学遊館 チャレンジキャンプ及び土曜なんでも体験隊参加者数 60人 ・地域サポーター（リーダー）48人</p>	<p>【取組の成果】 生涯学習センター学遊館において、リーダーのサポートを受けさまざまな体験活動を効果的かつ安全に実施することができた。</p> <p>【今後の課題】 地域サポーターの参加が単年度になりがちであるため、複数年度に渡る継続的な参加を促していきたい。</p>	B+		B+

令和2年度（令和元年度事業対象） 栄栗市教育委員会事務局事業評価シート

《社会教育》 つなぐ心 つなぐ地域 つなぐ知恵 共に学び 共に支えあう 栄栗の生涯学習

実践目標	主な取組内容（事務事業）と実績	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の主な意見・感想とそれに対する説明	委員評価
(5) 家族や親子で体験できる活動の充実	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇生涯学習センターなどで、家族や親子で参加できる体験活動講座を開催した。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇親子でできる体験教室 24講座</li> <li>・参加者数 280人</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇親子でできる体験教室 26講座</li> <li>・参加者数 327人</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <p>長期休業中などに実施する体験教室で、小さな子どもの付き添いという形で保護者に参加してもらい実施した。どの講座も非常に好評であった。今後も講座数を増やせるように考えていく。</p> <p>（講座内容）竹細工、陶芸、茶道、料理、大工、生け花、健康体操、絵手紙、手芸、ヨガなど。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>人気の講座に参加が集中するため、しばしば定員を超過することがある。生涯学習センターの登録団体などへ講師を依頼しているため、回数も限られてしまう。なるべく希望の講座へ参加できるように方法を改善していく必要がある。</p>	B+		B+
(6) 青少年健全育成リーダーの育成と資質向上研修の推進	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学遊館での体験活動に学生や地域サポーターの参加を募るなど、リーダーの発掘に努め、リーダー養成研修会を開催し、企画力や指導力の向上を図った。</li> <li>◇地域の子どもも会役員を対象に安全指導研修会を開催し、自主的な地域教育を支援した。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学遊館 土曜なんでも体験隊地域サポーター（リーダー） 53人</li> <li>◇研修会開催数 1回</li> <li>◇安全指導研修会開催数 1回</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇学遊館 チャレンジキヤンプ及び土曜なんでも体験隊地域サポーター（リーダー）数 48人</li> <li>◇研修会開催数 1回</li> <li>◇安全指導研修会開催数 1回</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <p>土曜なんでも体験隊では、大人のサポーター以外にも市内の高校に通う高校生や近隣の大学生など、多くの学生サポーターの協力により事業を実施した。学生サポーターの中には、自らも本事業の参加児童であった者も含まれ、学びの還元についても、少しずつではあるが広まりが見られるようになっている。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>少子化が進行し、単位子ども会（自治会単位）での各種活動の実施が困難になりつつある状況である。隣接自治会と合同で事業実施するなど、スケールメリットを活かした活動に転換していく必要がある。</p>	B+		B+
(7) 家庭や地域・学校園所と連携した子どもと青少年の学習の支援 【評価重点項目】	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇放課後子ども教室などを開催し、異年齢の子どもとの交流や居場所づくりの取組を行った。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇放課後子ども教室開催回数等 延べ458回（8教室）</li> <li>◇土曜チャレンジ事業開催回数等 延べ238回（3教室）</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇放課後子ども教室開催回数等 延べ477回（8教室）</li> <li>◇土曜チャレンジ事業開催回数等 延べ262回（3教室）</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <p>放課後や休日の時間において、学校と地域ボランティアの協力を得て、市内各地でスポーツ活動、文化活動などを年間を通じて実施することができた。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>活動には多くの地域ボランティアの協力が必要であるが現状では十分な状況とまではなっていない。今後においても引き続き、地域活動グループ等への働きかけを行っていく。</p>	<p>【意見等①】</p> <p>放課後子ども教室について、8教室となっていて、どのような形で実施されているか。</p> <p>【回答①】</p> <p>小学校単位、または中学校単位で、地域の実態に応じ、地域のボランティアを含めて運営委員会を組織した中で活動を行っている。</p> <p>【意見等②】</p> <p>地域ボランティアとして市内に何人ぐらいの方が協力されているか。また、昨年度と同様の課題がある中で、ボランティアの人数を増やすための取組はどのように考えられているか。</p> <p>【回答②】</p> <p>地域ボランティアとして協力いただいている人数について、8教室で約40のスポーツや文化活動があり、1活動あたり3～5人、すべてで約160人の方にご協力いただいている。ボランティアの人数を増やす取組としては、地域活動グループ等への働きかけや参加する子どもたちの保護者に声かけを行っている。募集の情報発信もしながら現在のボランティア中心に口コミで評判が広がるような働きかけが必要であると考えている。</p>	B+	

令和2年度（令和元年度事業対象） 史粟市教育委員会事務事業評価シート

《社会教育》 つなぐ心 つなぐ地域 つなぐ知恵 共に学び 共に支えあう 史粟の生涯学習

基本目標 3 読むこと・知ること・学ぶことを大切にしたい芸術・文化活動の推進

※評価指標  
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる  
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	主な取組内容（事務事業）と実績	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の主な意見・感想とそれに対する説明	委員評価
(1) 計画的な蔵書管理の推進 【評価重点項目】	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 図書館利用者の読書欲、知的好奇心に応えられるよう、蔵書の充実や資料の収集を行った。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 図書館の蔵書冊数（各生涯学習事務所図書室を含む） 170,189冊</li> <li>◇ 参考【H30実績】</li> <li>◇ 図書館の蔵書冊数（各生涯学習事務所図書室を含む） 165,822冊</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <p>蔵書の充実については、「利用者のリクエスト対応」「4図書館（室）における情報共有」などを行い、限られた蔵書スペースにおいて、さまざまな読書ニーズに対応できるよう取り組むことができた。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>限られた予算の中で読書ニーズにも対応しながら、工夫し蔵書の充実に努める。</p>	B+	委員の主な意見・感想とそれに対する説明	B+
(2) 図書館施設や機能の充実	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 蔵書検索及び予約サービスの実施</li> <li>◇ 「としよかんだより」の発行</li> <li>◇ 移動図書館車の運行</li> <li>◇ 電子図書館のPR</li> <li>◇ デイジー図書（視覚に障がいがある人等）数の充実</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 図書館の貸出冊数（各生涯学習事務所図書室を含む） 128,598冊</li> <li>◇ 移動図書館車巡回箇所数 120箇所（97日移動）</li> <li>◇ 電子図書館利用登録者数 147人</li> <li>◇ デイジー図書貸出数 226コンテナツ</li> <li>◇ 参考【H30実績】</li> <li>◇ 図書館の貸出冊数（各生涯学習事務所図書室を含む） 131,439冊</li> <li>◇ 移動図書館車巡回箇所数 123箇所（110日移動）</li> <li>◇ 電子図書館利用登録者数 127人</li> <li>◇ デイジー図書貸出数 96コンテナツ</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <p>電子図書館ネットワークの構築、デイジー図書の購入、図書館車巡回の充実など、市民の誰もがより図書に親しめる環境づくりを進めた。移動図書館車を定期的に巡回させ、来館が困難な地域の住民が図書館の本を手にとったり、要望の本を届けたりする機会を設けた。また、学校園に対し積極的に定期巡回を行った。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>電子図書館は広報やHPで周知をしているものの、利用申し込みは多くない。新型コロナウイルスの影響により移動を控えなければならない昨今、出かずに本を読める電子書籍の良さを伝えていく必要がある。デイジー図書についても書籍タイトルの拡充に努める。</p>	B+	委員の主な意見・感想とそれに対する説明	B+
(3) 読書活動の推進	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 読書ボランティア連絡会で読み聞かせなどの研修会を開催し、読書ボランティアの育成を行った。</li> <li>◇ 幼児とその保護者を対象にしたブックスタート事業により、図書館司書が本との出会いを応援した。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 読書ボランティア連絡会等開催回数 9回</li> <li>◇ 登録者数 193名</li> <li>◇ ブックスタート事業による読み聞かせ回数 17回</li> <li>◇ 参考【H30実績】</li> <li>◇ 読書ボランティア連絡会等開催回数 8回・研修会1回</li> <li>◇ 登録者数 203名</li> <li>◇ ブックスタート事業による読み聞かせ回数 18回</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <p>読み聞かせや選書について、より効果的な活動が展開できるよう各地域で活躍する読書ボランティア間の情報交換と連携強化を目的として、連絡会・研修会を開催した。10か月児健康相談時に、赤ちゃんと保護者に対し絵本を楽しむ時間の大切さと読み聞かせの大切さを伝えた。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>高齢化で引退される人もあり、新規の読書ボランティアを増やしていく必要がある。学校図書と連携しながら、児童、生徒の読書活動を推進し、本を読む習慣が身につくよう努める。</p>	B+	委員の主な意見・感想とそれに対する説明	B+
(4) 地域の歴史・文化に関する展示や講座の充実	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 歴史や伝統文化に対する理解や関心を深めるため、史粟学講座や企画展を開催した。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 史粟学講座実施回数 4回（受講者 234人）</li> <li>◇ 播磨科学公園都市圏域定住自立圏連携事業パネル展開催回数 1回（見学者 約300人）</li> <li>◇ 企画展開催回数 1回（見学者 約300人）</li> <li>◇ 参考【H30実績】</li> <li>◇ 史粟学講座実施回数 6回（受講者 548人）</li> <li>◇ 播磨科学公園都市圏域定住自立圏連携事業パネル展開催回数 1回（見学者 350人）</li> <li>◇ 企画展開催回数 2回（見学者 500人）</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <p>史粟学講座では、市外在住者からも参加があり、郷土史を通して、史粟の歴史について関心を持っていただくきっかけづくりとなった。また、企画展「戦争と平和資料展」では、歴史資料館等で所蔵している戦争に関連した資料等を展示し、市内外を問わず多くの人に、平和の尊さを語り伝える機会を提供することができた。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>企画展の開催については、山崎町での開催が中心となっており、市北部に特化した企画展が開催できていない。例年実施している企画展の内容について、成果の一部を山崎町以外の場所でも開催できないか検討していきたい。</p>	B+	委員の主な意見・感想とそれに対する説明	B+

令和2年度（令和元年度事業対象） 史粟市教育委員会事務事業評価シート

《社会教育》 つなぐ心 つなぐ地域 つなぐ知恵 共に学び 共に支えあう 史粟の生涯学習

実践目標	主な取組内容（事務事業）と実績	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員の主な意見・感想とそれに対する説明	委員評価
<p>(5)歴史・文化遺産の保存整理と調査研究の推進</p> <p><b>【評価重点項目】</b></p>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇史粟の歴史・文化資料の整理と研究を進め、保存と活用に努める。</li> <li>◇文化財所有者や伝統民俗芸能保存団体に助成を行うなど、文化遺産の保護や継承を支援する。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇保管資料の整理目録作成数 1,973点</li> <li>◇伝統民俗芸能保存団体数（助成団体数） 15団体</li> <li>◇古文書講座開催回数 10回（受講者 90人）</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇保管資料の整理目録作成数 2,272点</li> <li>◇伝統民俗芸能保存団体数（助成団体数） 18団体</li> <li>◇古文書講座開催回数 10回（受講者 117人）</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <p>市民より寄贈を受けた貴重な歴史資料を適切に管理し、後世に残していくことを目的に資料整理と解読を進めた。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>地域の伝統民俗芸能継承活動団体においては、団体数が年々減少しており、世代間での継承が課題となっている。</p> <p>引き続き、史粟学講座などの市民啓発事業を充実させることで、歴史文化に興味関心を持つ方々を増やす取組を実施していく。</p>	<p>B+</p>	<p>委員の主な意見・感想とそれに対する説明</p> <p>【意見等】</p> <p>寄贈を受けた歴史資料について、すべて整理されて把握できているか、また歴史的価値があるものがどれくらい存在しているのか。また、寄贈された資料について、どのような活用をされているか。</p> <p>【回答】</p> <p>令和元年度までに寄贈を受けた資料については、歴史資料令においてすべて目録作成を行っている。なお、解読については収納整理し資料館で保管している。主要なものから進めている状況となっている。寄贈を受けた資料については、基本的にすべてのもものが地域の歴史を知るための貴重な資料であると考えている。資料の活用については、市民を対象とした古文書講座を平成30年度から開催しており、主要なものをテキストとして解読実習を行い、古文書解読の人材の育成にも努めている。また、年1回、ミニ企画展として、市役所ロビーにおいてテーマを設けた資料の展示を行っている。</p>	<p>B+</p>
<p>(6)芸術・文化活動の振興</p>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇芸術や文化に親しむきっかけとなるよう、史粟市美術展や文化展などを開催。</li> <li>◇安全で快適に芸術や文化にふれることができるよう、施設の維持管理に努める。</li> <li>◇芸術文化奨励金を交付し、芸術文化の振興と人材育成を図る。</li> </ul> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇史粟市美術作品展の入場者数 1,312人</li> <li>◇山崎文化会館入館者数 84,547人</li> <li>◇芸術文化奨励金交付件数 4件</li> </ul> <p>※参考【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇史粟市美術作品展の入場者数 1,387人</li> <li>◇山崎文化会館入館者数 95,010人</li> <li>◇芸術文化奨励金交付件数 3件</li> </ul>	<p>【取組の成果】</p> <p>市全体としての美術作品展を開催し、創作活動の普及と裾野の広がりを図ると共に、展示の場での来場者間の相互交流により、さらなる創作意欲の促進につなげた。</p> <p>市内の文化芸術活動の拠点施設として、広く市民に活用していただけるよう施設改修に努めた。改修に当たっては、工事の時期や手法について利用者の利便性を極力損なわないよう配慮しながら進めた。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>芸術文化奨励金交付件数は、昨年度より1件増となった。今後もさまざまなジャンルの芸術文化活動も交付対象とすることで、若い世代の創作活動を支援していくことが必要である。</p> <p>山崎文化会館は、新型コロナウイルスの影響を受け3月の事業が実施できず入場者数が減少した。</p>	<p>B-</p>	<p>B-</p>	

令和2年度（令和元年度事業対象） 栄栗市教育委員会事務事業評価シート

《社会教育》 つなぐ心 つなぐ地域 つなぐ知恵 共に学び 共に支えあう 栄栗の生涯学習

基本目標 4 「元氣な栄栗」の実現をめざした生涯スポーツの推進

※評価指標  
「A」：満足できる 「B+」：概ね満足できる  
「B-」：あまり満足できない 「C」：満足できない

実践目標	主な取組内容（事務事業）と実績	取組の成果及び今後の課題	自己評価	委員評価
<p>(1)生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の支援</p> <p>①中学生以下の子どもや65歳以上の高齢者、障がいのある人を対象に、スポーツ施設使用料を免除します。</p> <p>②誰でも気軽に体を動かすことができるラジオ体操やウォーキングを推奨し、健康づくりや体力増進を図り、健康長寿をめざします。</p> <p><b>【評価重点項目】</b></p>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <p>①スポーツ施設の減免（無料）</p> <p>②-1 しーたん通信（1ch）でラジオ体操の放送</p> <p>②-2 しーたん通信（1ch）でラジオ体操の放送</p> <p>②-3 栄栗市ウォーキング大会</p> <p>②-4 ウォーキングコース設定</p> <p>②-5 しーたん通信でのコース紹介</p> <p>【実績】</p> <p>① 81,482人（登録団体含む）</p> <p>②-1 朝6:00～12:00までの1時間に2回放送（毎日）</p> <p>②-2 1日6回放映</p> <p>②-3 参加者数41人</p> <p>②-4 市内28コース設定</p> <p>②-5 5コース</p> <p>※参考【H30実績】</p> <p>① 77,355人</p> <p>②-3 54人</p>	<p>【取組の成果】</p> <p>①平成26年4月からのスポーツ施設使用料減免導入から6年が経過し、年々増加傾向にある。特に高齢者の利用が増加しているが、少子化の影響により子ども利用者は減少傾向である。</p> <p>②市民への認知度を高めるため、スポーツ推進委員が中心となり“ラジオ体操指導員”講習会を受講し啓発した。栄栗市スポーツ推進委員会が中心となりウォーキングコースを市ホームページで周知するとともに、しーたんチャンネルでも紹介を行った。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>①少子化の影響による利用者減少対策が必要。</p> <p>②事業所等への普及に力を入れる必要があり、継続して事業所、団体にアプローチしていききたい。また、気軽に身体活動ができるウォーキングを推奨し、健康長寿を図っていききたい。</p>	B+	B+
<p>(2)競技スポーツの強化と振興の支援</p> <p>①幼少期から競技スポーツを身近に感じる機会を増やすため、高校野球やカヌー競技の大会誘致に努めます。</p> <p>②スポーツ奨励金で、選手の育成を支援します。また各競技で活躍する選手に技術指導や講演会等を依頼し、後進の育成・強化を図ります。</p> <p>③東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の事前合宿の誘致や大会機運を盛り上げる事業に取り組みます。</p>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <p>①県大会以上の大会誘致</p> <p>②-1 奨励金交付数</p> <p>②-2 体育協会主催スポーツ教室・大会・講習会等</p> <p>③-1 事前合宿誘致</p> <p>③-2 盛り上げ事業</p> <p>【実績】</p> <p>① 5件</p> <p>②-1 47件（対象47人）</p> <p>②-2 教室2、大会3、講習3（新型コロナウイルス感染症防止による中止を含む）</p> <p>③-1 1件</p> <p>③-2 聖火リレー準備（延期）</p>	<p>【取組の成果】</p> <p>①公式競技ができる施設については、全日本クラスのカヌー選考会を誘致し、学生選手権、合宿を含めた宿泊施設の利用も増加しており、市内全体に経済効果が波及している。</p> <p>②交付件数は若年層が中心であり、年々増加傾向にある。全国大会等への出場は地域住民や子どもたちの励みとなっている。</p> <p>③誘致できた国やチームはなかった。東京2020大会1年延期</p> <p>【今後の課題】</p> <p>競技スポーツの推進と青少年の健全育成が図られているため、今後も引き続き実施していく。</p>	B+	B+
<p>(3)地域資源を活かしたスポーツ環境の充実</p> <p>栄栗固有の地域資源である栄栗50名山やスキー場、カヌー場等を活用したスポーツの振興を図ります。</p>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <p>①栄栗50名山の活用</p> <p>②スキー場の活用</p> <p>③音水湖カヌー競技場の活用</p> <p>【実績】</p> <p>①栄栗市ウォーキング大会（長水山）</p> <p>②スキー教室 中止</p> <p>③カヌー教室 30人</p>	<p>【取組の成果】</p> <p>①栄栗50名山をコースに取り入れたウォーキング大会が開催できた。</p> <p>②冬のスキー教室は雪不足のために中止となりました。</p> <p>③音水湖でのカヌー体験教室は市内小学4年生から6年生の児童を対象に実施し、カヌーに対する興味、普及に努めた。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>①50名山を活用できるイベントの検討</p> <p>②栄栗市の地域資源を生かしたスポーツ活動の推進</p> <p>③カヌーに対する興味、普及に努め、次年度以降も継続して実施。</p>	B+	B+
<p>(4)安全に活動できるスポーツ施設の整備</p> <p>各スポーツ施設の計画的な改修を行います。また、それぞれの施設の利用計画の調整や学校体育施設の利用促進を図ります。</p>	<p>【取組内容（事務事業）】</p> <p>①-1 スポーツパークセンター</p> <p>・機械設備更新</p> <p>・施設改修及び更新</p> <p>①-2 波賀日&amp;G海洋センター</p> <p>・備品修繕</p> <p>② 利用計画の調整</p> <p>【実績】</p> <p>①-1 温水プール過機、循環ポンプ更新、グラウンド夜間照明設置、高架水槽関連更新、事務所等エアコン更新</p> <p>①-2 武道場量張替修繕</p> <p>② 施設利用 152,840人</p>	<p>【取組の成果】</p> <p>①利用者ニーズに応じた施設改修を実施</p> <p>施設の老朽化に伴う修繕の実施</p> <p>利用者ニーズに応じた備品修繕を実施</p> <p>②調整団体の優先順位をつけることにより、各団体との調整がスムーズにできた。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>①施設の老朽化に伴う修繕については、計画をもって予算化し対応する必要がある。（緊急修繕含む）</p> <p>②利用団体との調整</p>	B+	B+